



スポーツ走行解析ツール

デジスパイスⅣ取扱説明書

Ver4.8.0

2025 年 10 月

デジスパイス株式会社

目次

1. はじめに	5
1. 使用前にご確認ください。	6
1.1 製品内容物の確認	6
1.2 使用前の準備	7
1.3 その他	8
2. ロガー本体の用法	8
2.1 外観	8
2.2 ロガー各部名称及び表示	9
2.3 ロガーのモード	10
3. 走行解析ソフトのインストール	13
3.1 USB ドライバーのインストール	13
3.2 走行解析ソフトインストール	13
3.3 インストール後のフォルダ構成	13
4. 取り付け方法	13
GNSS 衛星	14
5. データログ	16
5.1 計測前の注意点	16
5.2 データログ開始	17
6. 走行解析ソフト	17
6.1 表示説明	17

6.2 初期設定	18
6.2.1 ログ更新周期設定	18
6.2.2 ログ開始速度変更	19
6.2.3 保存ログ消去	19
6.2.4 セットアップ内容、ログメモリの空き状況	20
6.3 ロガーから走行データ読込	20
6.3.1 走行解析ソフト初期画面	20
6.3.2 ロガーとパソコン接続（ドリフトアングル計測なしの場合）	20
6.3.3 エラー表示	24
6.3.3.1 通信エラー発生	24
6.3.3.2 GPS ロガーとの接続に失敗しました。	24
6.3.3.3 デジスパイスの GPS と認識されませんでした。	25
6.4 軌跡移動	25
6.5 コース図／コントロールライン設定、再設定	26
6.5.1 コース図、コントロール検索	27
6.5.2 コース図 手動選択	27
6.5.3 コントロールライン 手動選択	28
6.6 走行データ全クリア	30
6.7 ログファイル読込	31
6.8 読み込み済ログの表示	31
6.9 読込済ログの再表示	32

6.10 データの選択	32
6.11 走行データ保存.....	32
6.12 走行データ一括保存.....	32
6.13 セクタを走行データとして保存	33
6.14 走行データ一覧を CSV ファイル保存	34
6.15 走行データを CSV ファイルとして保存	35
6.16 走行データの名前の編集	36
6.17 MOTEC csv 読込.....	37
6.18 NMEA ファイル出力	45
7.詳細解析.....	45
7.1 表示解説（スイッチ）	45
7.1.1 タブ	45
7.1.2 グラフツールバー	46
7.1.3 セクタ設定方法	47
7.1.4 セクタ位置からの同時スタート機能.....	48
7.2 複数回、同じ地点を通るときのセクタ設定	49
7.3 設定したセクタの調整機能.....	50
7.4 アニメーションウィンドウのアイコン	51
7.4.1 コース図検索.....	51
7.4.2 コース図ファイル読込/保存	52
7.4.3 コース図調整.....	52

7.4.4 コース図ファイル保存	52
7.4.5 スース図作成	53
7.5 ウィンドウ	56
7.5.1 速度ウィンドウ	56
7.5.2 全コース/G・旋回半径ウィンドウ/ビデオ/ドリフト.....	57
7.5.2.1 全コースウィンドウ	58
7.5.2.2 G/旋回半径	59
7.5.2.2.1 グラフの見方.....	65
7.5.2.3 ビデオ.....	68
7.5.3 アニメーションウィンドウ	69
7.6 グラフ、走行軌跡を画像として保存する機能.....	70
8. 初期設定.....	71
8.1 セクタゲート長の設定.....	71
8.2 ラップ切り出し条件.....	72
9. ヘルプ	72
9.1 ヘルプ	72
9.2 デジスパイスホームページ.....	73
9.3 バージョン情報.....	73
9. FAQ	74
10. ハードウェア仕様	76
11. BLUETOOTH 機能についてのご注意.....	78

12. ラップタイマーアプリ	78
13. 製品に関する問い合わせ	78
14. 変更履歴.....	79

1. はじめに

この度は、デジスパイスⅣのご購入いただき、誠にありがとうございます。

デジスパイスは、皆様のモータースポーツライフをサポートすることを確認しています。取扱説明書を十分にお読みいただき、正しくご使用いただきますようお願いいたします。

また、弊社ウェブサイトには、YouTube チャンネルでの使用方法などを解説した動画もご覧いただけますので、ぜひご参照ください。。

<https://www.youtube.com/user/ykhr4603/videos>



DigSpice youtube チャンネル

【注意と警告】

① ご使用温度

デジスパイスはリチウムイオン電池を内蔵しております。

リチウムイオン電池は高温環境下での使用により、膨張や発火といった重大な事故につながる恐れがございます。

安全にご使用いただくため、製品の使用温度が 60℃を超えないよう十分ご注意ください。

特に直射日光の当たる車内など、高温となる環境でのご使用・放置は避けていただき、温度管理には十分ご配慮くださいますようお願いいたします。 -10℃以下あるいは 60℃以上の温度下で使用されますと、バッテリーの充電能力は低下します。充電は 0℃以上 40℃以下で行うようにしてください。

- ② 電波の受信状態が悪いと電力消費が多くなり動作時間は短くなります。
- ③ 安全の為にロガーとアクセサリ類は子供の手の届くところに置かないでください。誤って飲み込む危険があります。万一、飲み込んだ場合は、すぐに医師の診察を受けてください。
- ④ メーカーはロガーの使用によるバッテリーの消耗、または製品の誤用から生じる、どのような損害賠償、損失に対して責任を一切負いません。

- ⑤ メーカーに承認されたアクセサリのみを使用してください。
- ⑥ ロガーを清掃するときはきれいで柔らかな布を使用してください。洗濯溶剤、化学物質、強い洗剤を使用しないでください。
- ⑦ ロガーを分解しないでください。メーカーに認められていない分解行為は破損や保証期間が無効になる可能性があります。
- ⑧ 火の中や電子レンジに入れたり、ドライヤーで乾燥させたりしないでください。
- ⑨ ストーブやヒーターなど熱の発生する機器の近くや直射日光の当たる場所や夏の車内など、高温になるところに置いたりしないでください。
- ⑩ 落とす、踏みつけるなど、強い衝撃を与えないでください。
- ⑪ 湿気、ほこり・油煙の多い場所での使用や保管をしないでください。
- ⑫ 同時に取得した複数のロガーでデータを比較する場合は、機器により受信誤差が発生する場合があります。
- ⑬ 走行解析ソフトをご使用のパソコンは、下記のスペック以上であることを推奨いたします。

- ・ OS Windows 10,11 (32 ビット/64 ビット)
- ・ ハード CPU Celeron® 2 GHz
- ・ メモリ 2 GB
- ・ USB USB2.0/3.0

推奨環境はすべてのパソコンについて動作保証をするものではありません。

- ⑭ デジスパイスⅢ及びⅣの BLUETOOTH 機能は、日本国内のみでお使いください。海外でご使用になると罰せられることがあります。

1. 使用前にご確認ください。

1.1 製品内容物の確認

ご使用前に、本システムをご利用いただくために必要な以下の内容物がパッケージに同梱されているか必ずご確認ください。

もし、内容物に破損や不備がある場合は、弊社またはお買い上げいただいた販売店にご連絡ください。以下の内容物が欠品している場合も同様にご連絡ください。



- ① デジスパイスIV
- ② 外部アンテナ
- ③ USB Type-C ケーブル
- ④ インストールマニュアル
- ⑤ 保証書

※予告無く製品内容物が変更になる可能性があります。


1.2 使用前の準備

充電方法

デジスパイスIVの充電は、付属のケーブルを使用して行ってください。充電は約3時間かかりますので、パソコンなどを使用して付属のUSBケーブルを介して充電してください。初めて使用する際には、充電が完全に終わるまで充電を行ってください。新品の場合、フル充電で約7時間の連続使用が可能です（Bluetooth なし、外部アンテナなし）。

※デジスパイスIVはリチウムバッテリーを使用しています。

バッテリーは空の状態で放置すると故障の原因となりますので、長期保管時にはバッテリー残量が1/2～1/3程度になるようにしてから保管してください。

	<p>■充電（緑）LED 表示</p> <table border="0"> <tr> <td>充電中</td><td>点滅</td></tr> <tr> <td>充電完了</td><td>点灯</td></tr> </table>	充電中	点滅	充電完了	点灯
充電中	点滅				
充電完了	点灯				

（注意）

Type-C to Type-C ケーブルでの充電及び通信はできませんのでご注意ください。

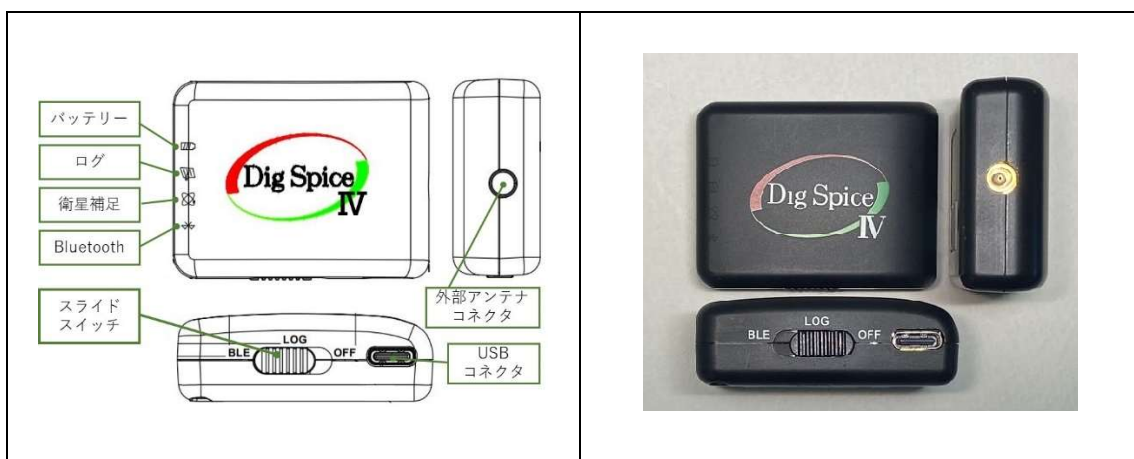
付属または市販の Type-A to Type-C ケーブルをご利用ください。

1.3 その他

- ① ロガーは屋内では衛星の信号を受信できないことがあります。
- ② ロガーを使用しないときは、バッテリーなどの耐用年数を長くするために、こまめに電源を OFF にしてください。
- ③ 車内取り付けの場合、電波の反射、遮蔽、窓ガラスの特殊コーティングなどにより、衛星の電波受信に影響を及ぼす可能性があります。
- ④ ビル街などの走行は受信に影響がでる可能性があります。
- ⑤ トンネルなどの電波状況の悪い場所では使用できません。
- ⑥ サーキットによっては、山中で木や崖などにより衛星を受信しづらいコースもあります。
- ⑦ 衛星のレイアウトにより受信状態が悪い場合があります。
- ⑧ 一般的に上空が開けた場所での使用ほど最高のパフォーマンスを発揮します。
- ⑨ 天候は受信に影響を与えます。特に雨、雪、霧は受信状態を悪くする可能性があります。
- ⑩ ロガーのバッテリーが極端に少なくなると受信に影響がでる場合があります。
- ⑪ すべての場所での受信を保証するものではありません。
- ⑫ はじめてロガーを起動させる時、信号を受信し位置を表示するまでに 1～3 分ほどかかります。もし 10 分たってもロガーが信号を受信せず位置を表示しなければ、他の空の開けた場所で再度試してください。
- ⑬ ご使用前に必ずセットアップ内容を確認してください。
20Hz/10Hz/5Hz モード設定になっていない場合は、走行解析ソフト【ロガー】>【セットアップ】を行ってください。
- ⑭ ログ読み込み中に通信エラーやタイムアウトが発生した場合、あるいは USB ケーブルを引き抜いた場合は必ず走行解析ソフト【ロガー】>【セットアップ】を行ってください。
- ⑮ メモリに空きが無い状態では、セットアップが正常にできない場合があります。
(20Hz/10Hz/5Hz モードの切り替ができない)
ログを消去してからセットアップ行ってください。
- ⑯ ウイルス対策ソフトの影響でソフトのインストールが正常に行えない、デジスパイスⅣと PC との通信が正常に行いえないなどの現象が発生する場合があります、その場合は、ウイルスソフトを一時停止して頂くか、特例設定などで対応してください。

2. ロガー本体の使用法

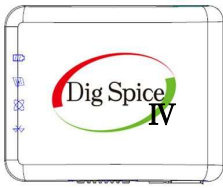

2.1 外観

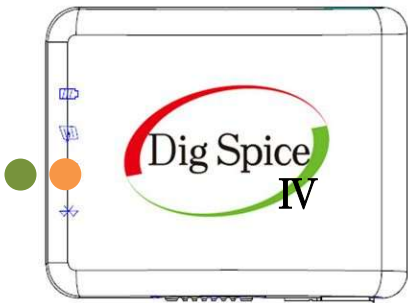
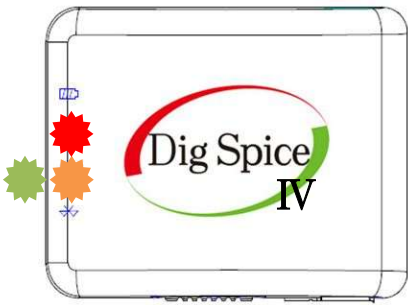
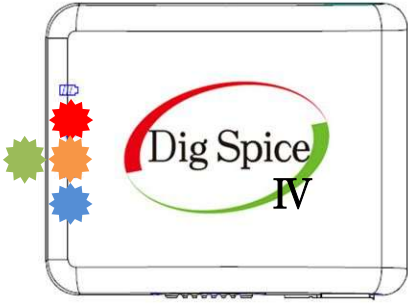


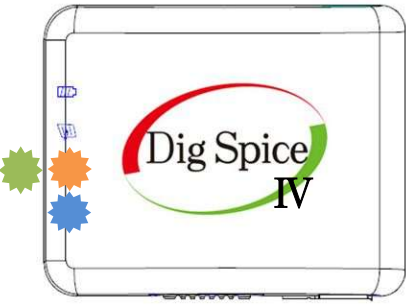
2.2 ロガー各部名称及び表示

名称	アイコン表示	色	ステータス	機能
バッテリー		赤	点灯	バッテリー残量小
			点滅	バッテリー充電中
			点灯	バッテリー充電完了
ログ		赤	点滅	1/2Hz 走行データ記録中
				1/5Hz 走行データ記録中 メモリ残10%以下
			点灯	メモリ残なし
衛星補足		内部アンテナ 橙	点灯	衛星補足準備中
			点滅	衛星補足完了
		外部アンテナ 緑	点灯	衛星補足準備中
			点滅	衛星補足完了
Bluetooth		青	点灯	Bluetooth 機能は ON だが、他の機器と接続していない
			点滅	Bluetooth 機能が ON で他の機器と接続されている
			消灯	Bluetooth OFF
名称	詳細		ステータス	機能
コネクタ	USB	—	—	充電/データ通信
	外部アンテナ	—	—	外部アンテナ接続
スイッチ	電源/Bluetooth	—	OFF	電源OFF
			LOG	データログモード
			BLE	データログ+Bluetooth通信ONモード

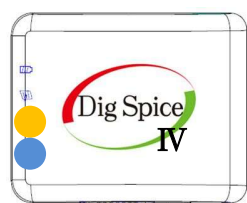
2.3 ロガーのモード

モード	ロガー表示/遷移	ロガー機能
電源オフ		
	【電源スイッチ LOG or BLE】	

ナビモード		<p>■使用状況（ログは行いません）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ PC に取得済みデータを転送 ・ ロガー設定 ・ 計測前の 15 分間補正情報受信 <p>※衛星補足（橙/緑）点滅が必要</p> <p>■LED 表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ログ(赤) 消灯 ・ 衛星補足 <ul style="list-style-type: none"> 内部アンテナ(橙) 点灯/点滅 外部アンテナ(緑) 点灯/点滅 ・ BLE（青） 点灯/点滅/消灯
↓	<p>設定速度に達すると自動でログモードとなり走行データ取得を開始します。 ログ開始する『ログ開始速度』は、【6.2.2.1 ログ開始速度変更】で変更可能。</p>	
ログモード (BLE オフ)		<p>■使用状況 走行データの取得</p> <p>■LED 表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ログ(赤) 点滅 ・ 衛星補足 <ul style="list-style-type: none"> 内部アンテナ(橙) 点滅 外部アンテナ(緑) 点滅 ・ BLE（青） 消灯
ログモード (BLE オン)		<p>■使用状況 走行データの取得</p> <p>■LED 表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ログ(赤) 点滅 ・ 衛星補足 <ul style="list-style-type: none"> 内部アンテナ(橙) 点滅 外部アンテナ(緑) 点滅 ・ BLE（青） 点灯(未接続) <p>※BLE オンでスマホと未接続でも ログは正常におこないます。</p>
↓	<p>ログ開始速度以下が 10 分間継続した時、データ取得を停止してナビモードとなります。（自動ログ停止機能）</p>	

<p>自動ログ 停止 (ナビモード)</p>		<p>■使用状況（ログは行いません）</p> <p>PC に取得済みのデータを転送する。 ロガーの初期設定</p> <p>■LED 表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ログ(赤) 消灯 ・衛星補足 <ul style="list-style-type: none"> 内部アンテナ(橙) 点滅 外部アンテナ(緑) 点滅 ・BLE（青） 点灯/点滅
--------------------------------	---	--

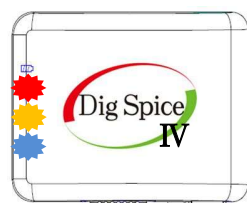
■ナビモード



名称	アイコン表示	色	ステータス	機能
ログ		赤	点灯	メモリ残量小またはフル状態
衛星補足		内部アンテナ 橙	点灯	衛星補足準備中
			点滅	衛星補足完了
		外部アンテナ 緑	点灯	衛星補足準備中
			点滅	衛星補足完了
Bluetooth		青	点灯	Bluetooth 機能は ON だが、他の機器と接続していない
			点滅	Bluetooth 機能が ON で他の機器と接続されている
			消灯	Bluetooth OFF

バッテリーLED は状況により変化します。

■ログモード



名称	アイコン表示	色	ステータス	機能
ログ		赤	点滅	走行データ記録中
衛星補足		内部アンテナ 橙	点滅	衛星補足完了
		外部アンテナ 緑	点滅	衛星補足完了
Bluetooth		青	点灯	Bluetooth 機能は ON だが、他の機器と接続していない
			点滅	Bluetooth 機能が ON で他の機器と接続されている
			消灯	Bluetooth OFF

バッテリーLED は状況により変化します。

3. 走行解析ソフトのインストール

3.1 USB ドライバーのインストール

デジスパイスⅣ、初期型及びⅡ型は Windows10,11 ではプリインストールです、従ってインストールの必要ありません。

デジスパイスⅢはインストールが必要です。弊社ウェブサイトからダウンロードのフォルダ内の『DigSpice 3 用インストールマニュアル及び USB ドライバー』のデジスパイスⅢ インストールマニュアル 1.3.pdf に沿ってインストールしてください。

3.2 走行解析ソフトインストール

同梱のインストールマニュアルをご参照ください。解析ソフトは機能アップなどバージョンアップを不定期で行いますので定期的に HP をご覧頂くか HP から LINE 登録してください。

3.3 インストール後のフォルダ構成

C:\Users\○○\Documents\DigSpice\Raw	ログデータ
C:\Users\○○\Documents\DigSpice\Data	走行解析済データ
C:\Users\○○\Documents\DigSpice\Circuit	サーキットコース図
C:\Users\○○\Documents\DigSpice\ControlLine	コントロールライン
C:\Users\○○\Documents\DigSpice\Secter	セクタデータ
C:\Users\○○\Documents\DigSpice\Help	ヘルプデータ

※○○はユーザー名

ホームページなどから各データをダウンロードした時は、各フォルダに収納すると便利です

4. 取り付け方法

<外付アンテナ>

デジスパイスⅣ本体内の内部アンテナの他に外部アンテナも用意しています。

外部アンテナ取付け時、自動で認識し内部アンテナは無効になります。

外部アンテナは防塵防水 IP66(完全な防塵構造で、いかなる方向からの水の強い直接噴流によっても有害な影響を受けない)仕様となっています。

デジスパイスⅣ本体は IP00 と防塵防水ではありません。外部アンテナを車外に取付けることで本体の飛散防止や悪天候時にも良好な条件で正しい位置情報を取得することができます。

アンテナ裏面にマグネットが付いています上空の良く見える金属部分に取り付けてください。

- ・進行方向の指定はありません。
- ・飛散には十分ご注意ください。



＜外部アンテナ＞

デジスパイスIV本体に内部アンテナがあります。外部アンテナを使用しないときは下記を参照ください。外部アンテナ取付け時、内部アンテナは無効になりますのでご注意ください。

取付け時は必ずログの **DigSpice** ロゴ（ロゴの下にアンテナがあります）が衛星に向いていることを確認してください。

・進行方向の指定はありません。



＜取付け時の注意＞

1. 衛星の電波は金属、人体、水分などで大きく減衰します。
アンテナ上部に電波を遮断するものがなく常時衛星が見える位置に取付けるようにしてください。
2. バイク、フォーミュラカー、レーシングカート、ジムカーナD車両などデジスパイスIV本体に大きな振動が加わる可能性がある場合は誤動作の可能性があります、必ず除震対策を行ってください。

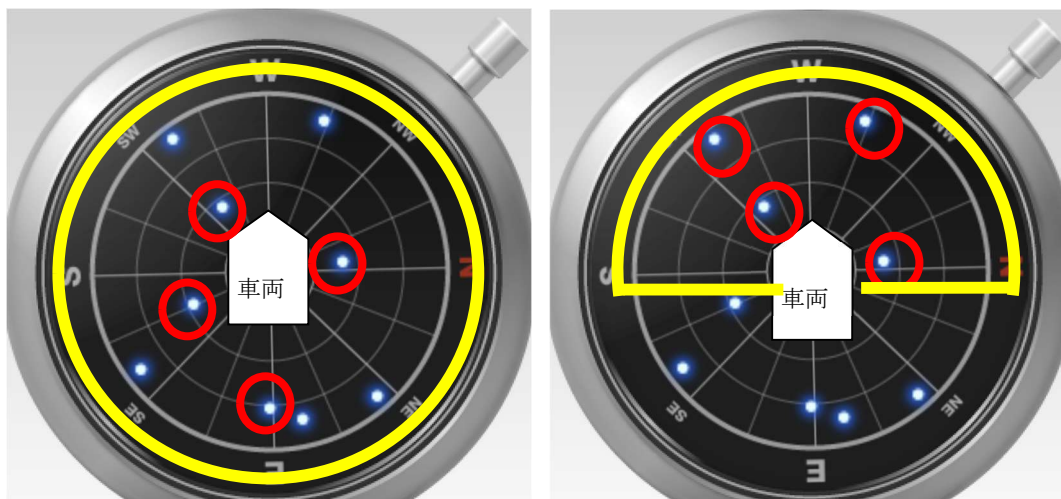
【アンテナ取付け】

■クルマ：車内はルーフ、ピラー、ガラスなどの金属やガラスコーティングなどの影響で受信状態がよくありません。車内に比べ車外取付けは受信感度が大幅に上がります。屋根に取り付けを推奨いたします。外部アンテナをご利用の場合デジスパイスIV本体は車内に置いてください。

【取り付け位置補足】

デジスパイスIV本体または外部アンテナをダッシュボードに取り付けてデータを取ることもできますが、屋根など衛星とロガーの間に遮蔽物（金属、水分などは電波を通しません）がない場所に取り付けた方がより正確なデータを取ることができます。

ロガーは8個以上の衛星からの電波を使い位置情報を求めます。



<屋根に取り付けた場合>

<ダッシュボードに取り付けた場合>

※赤○内は測位衛星 ※黄は電波受信可能な方位

屋根に取り付けた場合（左図）は、車両を中心に全方位の条件のいい衛星の電波を使い位置を計算できますが、ダッシュボードに取り付けた場合（右図）は、屋根などの影響で前側と側面の一部から受信できる衛星電波だけを使うことになり誤差を含みやすくなってしまいます。またボンネット、ピラー、ダッシュボード、屋根の内側などの金属、プラスチック素材などに電波が反射し、その異常な電波を受信してしまう可能性もあります。

また進行方向前方の衛星からの電波を受信していたのに、ヘアピンなどで進行方向が変わり突然違う方角にある衛星からの電波に切り替わることも誤差要因となります。

屋根に取り付けた場合は、常に全方位の条件の良い測位衛星からの電波を受け取っているため、進行方向の変化による衛星の切替わりが起こる可能性が少なくなります。

このような理由からはデジスパイスIV本体または外部アンテナを屋根に取り付けることを推奨させて頂いております。

※養生用のガムテープ、プラスチックなどは電波の減衰はほとんどありません。

■バイク：リアカウルなどを推奨、タンク上に取り付けた場合ライダーが覆い被さると受信状態が悪くなる場合があります。

あまり先端部分に取り付けると振動を受ける可能性がありますのでご注意ください。

※ステアリング周りに取り付けの場合は、メーター・ハンドルなどの影響で電波が反射して正常に受信できない可能性があります。

■ カート：フロントカウルなどを推奨

フロントカウルに角度が付いている場合は、ステーなどでデジスパイスIV本体または外部アンテナが衛星に向くように加工した方が感度は上がります。

■ マジックテープや両面テープ

車外に取り付けが出来ない場合には、ダッシュボードなど車両前方で上空がよく見え、電波を受信し易い場所に振動などで転げ落ちないようにマジックテープ、両面テープなどで確実に取り付けてください。

5. データログ

5.1 計測前の注意点

1. 測位衛星からの補正情報の受信

正しいデータを取得するために測位衛星から補正情報を受け取る必要があります。

<受信方法>

- 1.1 走行前にロガー電源を[LOG]または[BLE]にします。
- 1.2 衛星捕捉(橙/緑点滅)している状態で 15 分以上、測位衛星から補正情報を受信します。（上空が開けている場所で実施してください。）
- 1.3 その後走行を開始してください。走行までに時間がある場合は電源を一旦 OFF にしても問題ありません。

※補正情報は、100km 圏内の 1 週間分のデータを受信しますので、同じサーキットを続けて走行する場合は一度行えば 1 週間以内であれば再度おこなう必要はありません。

<補正情報受信の注意>

稀に電波の受信状況が悪いために、ロガー位置は停止しているにも関わらず、【ログ開始速度】を超えてしまいログを開始してしまう場合があります。その場合は 15 分の補正情報受信後に下記作業を行ってください。

- (1) ログ可能時間が減っているため、ログ消去(6.2.3)を行ってから電源をオフしてください。
- (2) PC が手元に無くログ消去できない場合でもメモリの無駄使いを防ぐため、補正情報受信後に電源をオフにしてください。
ログ可能時間が減っていますのでご注意ください。

【ログ開始速度】を高く設定することで回避できます。

6.2.2 ログ開始速度変更参照

2. 衛星補足

衛星捕捉後（橙/緑 点滅後）すぐに走行すると、データに誤差を含む可能性があります。衛星補足 LED 点滅後 10 分程度経ってから走行を開始するようにしてください。

5.2 データログ開始

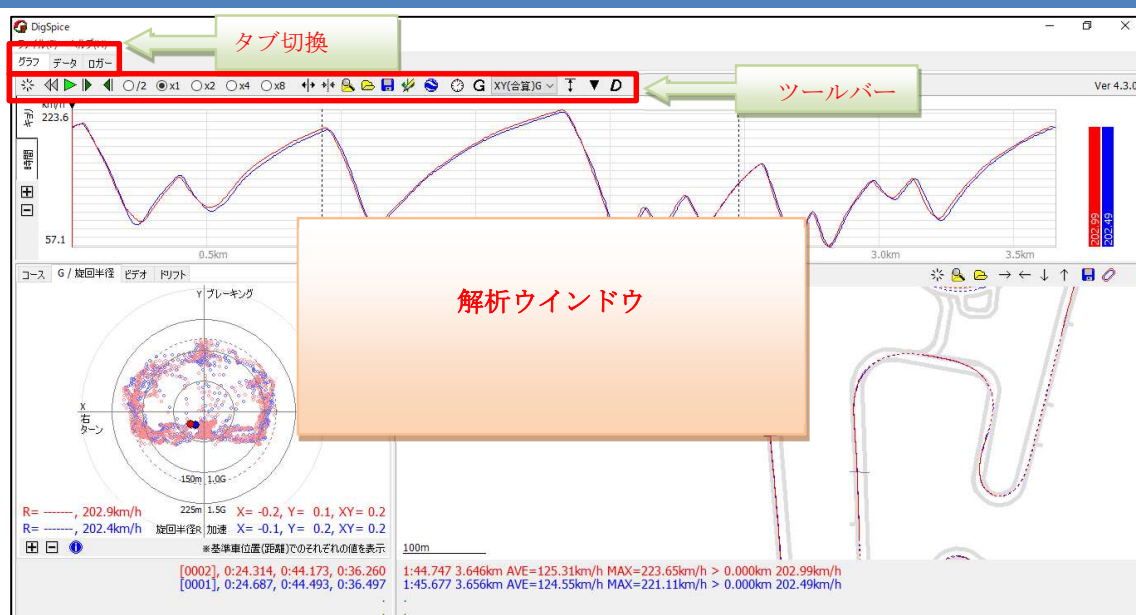
ログアの電源を【LOG】または【BLE】にして走行してください。

【ログ取り扱いの注意点】

走行終了後は必ず電源を OFF にしてください。

ログ状態のまま走行場所から自宅などへ移動しますと、広範囲のデータを取得することになり、実際のスポーツ走行場所を見つけるのが面倒となります。（6.3.3 参照）

6. 走行解析ソフト



6.1 表示説明

- | | | |
|-----------|--------------------------|---------------|
| ■ タブ | 【グラフ】 | 走行データの解析 |
| | 【データ】 | 走行データの入出力及び選択 |
| | 【ログ】 | ログの設定 |
| ■ ツールバー | 各種設定を行います。 | |
| ■ 解析ウィンドウ | データ解析結果、アニメーションなどを表示します。 | |

6.2 初期設定



デジスパイスの解析ソフトを立ち上げます。

ロガーの初期設定は【ロガー】タブで行います。

PC に付属ケーブルでロガーを接続してから、ロガーの電源を[LOG]または[BLE]にして操作します。

(注意)

Type-C to Type-C ケーブルでの充電及び通信はできませんのでご注意ください。

付属または市販の Type-A to Type-C ケーブルをご利用ください。



6.2.1 ログ更新周期設定

■セットアップモード

20Hz モード 更新周期 0.05 秒/回で約 5 時間分のログを保存できます。

最高速など高速のデータを取得に適したモードです。

10Hz モード 更新周期 0.1 秒/回のログで約 10 時間分のログを保存できます。

通常のサーキットの走行解析に適したモードです。

5Hz モード 更新周期 0.2 秒/回のログで約 20 時間分のログを保存できます。

移動ルートや、自転車、ランニングなどに適したモードです。

※LOG モード、BLE モードで別々更新周波数を設定できます。

※バッテリーが完全に放電した場合は再度セットアップを実施してください。

6.2.2 ログ開始速度変更

ログ開始/停止速度設定スイッチを押すと任意にログ開始速度を変更可能です。

ログ開始／停止速度の設定

30

km/h

この速度以上になるとログを開始します。この速度を10分間下回るとログを停止します。

電波の状況により停止しているにも関わらずログを開始してしまう場合は開始速度を高く設定して頂くことをお勧めします。

■推奨初期値速度

マラソンなど	0km/h
自転車	5km/h
サーキット(ピットロード走行中にログ開始)	30km/h
ラリー、ジムカーナ、ダートラ（スタートラインに移動中にログ開始）	10km/h

6.2.3 保存ログ消去

ロガーのメモリ内容を消去します。

(注意) 消去後のデータを復活させることはできません。必要なデータは必ず PC に保存してから消去してください。



Yesを押すとログ消去開始 マウスカーソルが『○』マークに変わり消去まで約 90 秒かります。



OKを押して終了してください。

6.2.4 セットアップ内容、ログメモリの空き状況

ログガーのセットアップモード及び、メモリの使用状況、ログ開始停止速度を確認します。グレーの表示はPCのポート番号、ログガーのファームウェアの番号などが表示されます。ログデータでメモリ残量が0%になると、ログを自動停止しその後のデータ取得できません。引き続きログする場合は、6.2.3 保存ログ消去をおこなってください。



6.3 ロガーから走行データ読込

6.3.1 走行解析ソフト初期画面



<走行解析ソフト立ち上げ初期画面>

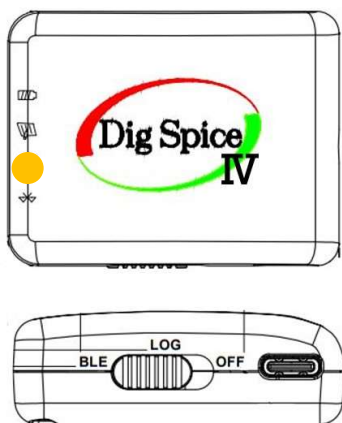
6.3.2 ロガーとパソコン接続（ドリフトアングル計測なしの場合）

ドリフトアングル計測の場合はiPhoneからデータをダウンロードする必要があります。
ダウンロード方法は『ドリフト取扱説明書』をご覧ください。

走行後、ログガーを確認後パソコンに接続し電源を【LOG】または【BLE】にする。



付属 USB ケーブルで PC の USB ポートに接続



スイッチを[LOG]または[BLE]にする

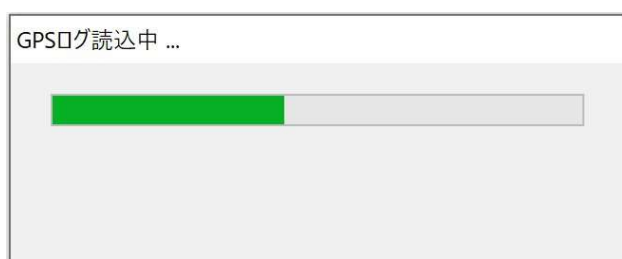
■LED 表示

- ・ログ(赤) 消灯
- ・衛星補足(橙/緑) 点灯/点滅
- ・BLE (青) 点灯/点滅

PC によってはロガーを認識するの
に 15 秒程度かかることもあります。



《ロガーからログ読込》を押す

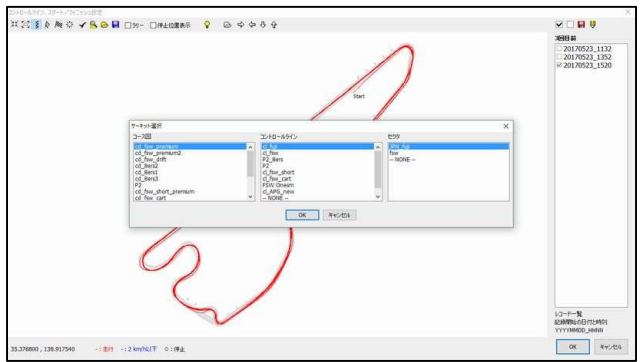


走行データの読込開始

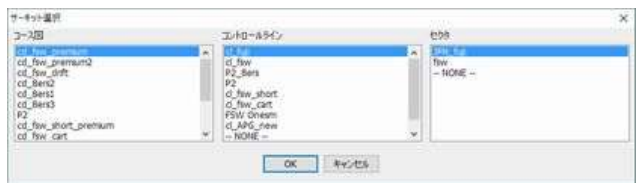


読み込み終了後、
『GPS ログに名前を付けて保存』
ウインドウが開きます。
名前を付けて保存してください。

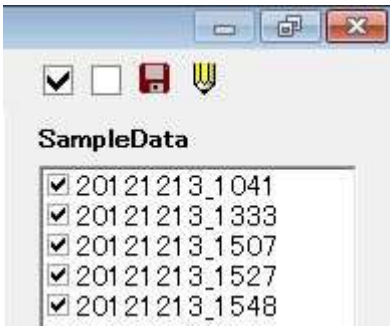
※初期値
DigSpice4 DS4 年月日時.bnx4
DigSpice3～初期型
GPS3 年月日時.bin



ロガー内のデータ及びサーキットコース
図、コントロールライン、セクタを表示
します。
5km 圏内に複数のサーキットがあるとき
は『サーキット選択』ウインドウが開き
ます。
(すでに別のサーキットのコース図を読
み込んでいる場合は、「コース図、コン
トロールライン検索」ボタンを押してく
ださい。)



5km 圏内にあるサーキットのコース図、
コントロールライン、セクタが表示され
ます。
それぞれを選択し **OK** を押してくださ
い。



※右上のツールバー

ロガーのデータ表示
レコード開始日時を表示/選択

【レコードデータ】


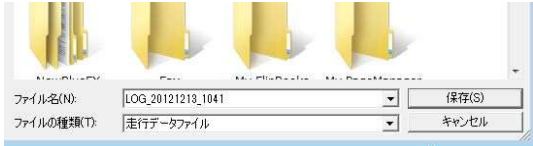
ロガーからダウンロードしたログデータには1つまたは複数のレコードデータが保存されてい
ます。たとえば午前と午後の2回走行しログをとった場合は2つのレコードデータがあること
になります。ログを取得したあと60秒以上ロガーの電源をOFFし、再びログを取得した場

合、あるいはログ取得中に 60 秒以上のログ自動停止が入った場合、その前後のログは別々のレコードデータとなります。連続したひと固まりの軌跡データをレコードデータと呼びます。

■ ツールバー

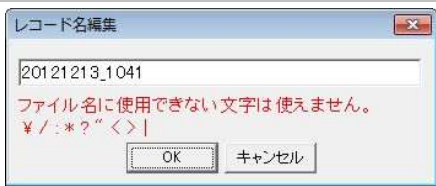
ツールバー	詳細	
	表示	詳細
	<input checked="" type="checkbox"/>	レコードを全て選択
	<input type="checkbox"/>	レコードを全て解除
		選択レコードを1つの走行データとして保存 レコード名で選択した1つのレコードだけを 分割して保存する。
		レコード名を編集
	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> SampleData	ログデータファイル名表示
	<input checked="" type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> SampleData	レコードを選択する。 チェックボックスをクリックすることで選択可能
	<input checked="" type="checkbox"/> 20121213_1041 <input type="checkbox"/> 20121213_1333 <input type="checkbox"/> 20121213_1507	表示日時は、データ取得開始した日時が表示されています。

■ 走行データ保存

	<p>1 つあるいは複数の選択しているレコードを走行データとして保存します。</p> <p>矢印キーでコース図に対して移動した場合、移動調整後の修正レコードデータが保存されます。</p>
	<p>LOG_DATE+TIME の初期値が表示されます。</p> <p>分かりやすいファイル名に変更して管理してください。</p>

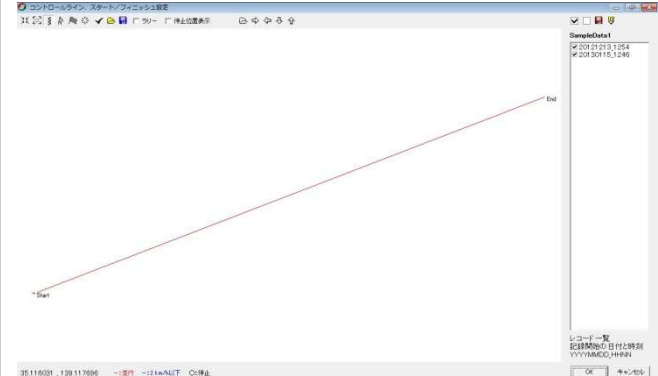
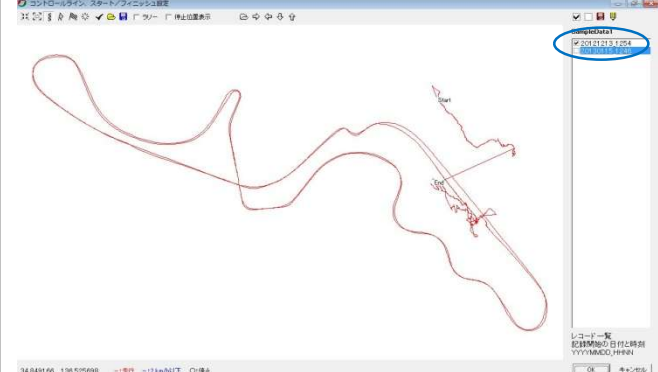

■ レコード名編集

	<p>選択している、レコードのファイル名を編集します。</p>
---	---------------------------------

	<p>DATE+TIME の初期値が表示されます。</p> <p>管理しやすい名前に変更してください。</p>
---	---

(注意) ログデータが直線表示となる。

直線となる現象は、複数の場所（自宅とサーキットなど）でログを行った時に発生します。
 レコードのチェックを外すことで、複数個所のデータを別々に処理することが可能です。
 必要なデータのみ保存して管理すると便利です。
 または **START** または **END** 部分を拡大することで、ログされたデータが表示されるようになります。（下図範囲指定拡大表示、またマウスホイールで拡大できます）

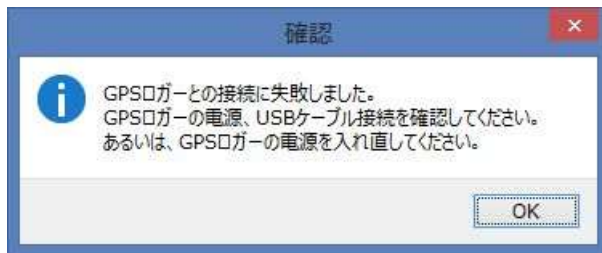
	<p>データが直線の表示となる。</p>
	 <p>レコード選択のチェックを操作することで分割が可能となります。 分割後、レコードとして保存すると管理が容易になります。</p>

6.3.3 エラー表示

6.3.3.1 通信エラー発生

一部パソコンにおいてロガーとの通信に失敗することがあります。その場合、自動で再読み込みを行います。その場合プログレスバーが戻ります。

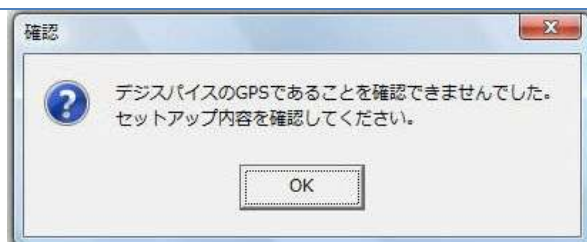
6.3.3.2GPS ロガーとの接続に失敗しました。



■対応

- ① ロガーと PC が付属 USB ケーブルで確実に接続されていることを確認してください。
- ② ロガーが電源[LOG]または[BLE]になっているか確認してください。
- ③ ロガーの電源を OFF にしてから[LOG]または[BLE]にして再度実行してください。
- ④ 走行解析ソフトを再立ち上げ後に再実行してください。
- ⑤ PC の再起動に再実行してください。

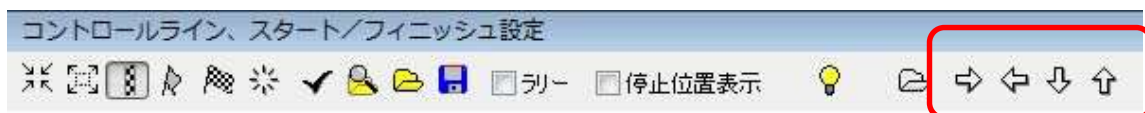
6.3.3.3 デジスパイスの GPS と認識されませんでした。



■対応

- 【ロガー】タブ>セットアップ内容確認、ログメモリの空き状況チェックを行ってから、
 【不明なモード】と表示されたら
 【ロガー】タブ>10Hz/20Hz/5Hz モードのいずれかのモードにセットアップしてください。(6.2.1～6.2.2 参照)

6.4 軌跡移動



デジスパイスIVは精度が大幅に向上しましたため、この作業はほとんど必要ありません。

走行データとコース図を表示させた上で矢印キーを使ってコース図に合わせ込む事でより正確な走行データ解析を行うことができます。

ロガーで取得したデータは CEP=1.5m の誤差を含む可能性があります。この誤差は 0.1 秒毎 (10Hz モード) に 1.5m 誤差を含むと言うものではなく、長時間の間に位置が少しずつシフトしてしまう可能性があるということです。

たとえば、

- ・先週取得したデータと今日のデータがシフトしている。
- ・朝のデータと夕方のデータでシフトしている。

というようなイメージです。

この誤差を最小限にするために、本作業をすることをお勧めします。

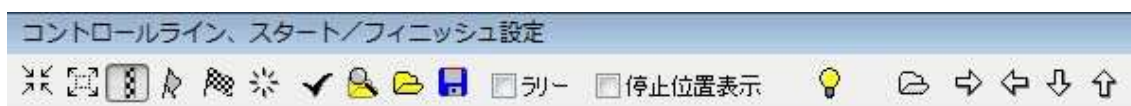
また誤差（シフト量）は短時間の方が少ないため、長時間データを一度に移動させるのではなく、レコード毎（21 ページ参照）に矢印スイッチを押して調整して頂いた方がより正確な位置での解析できます。

※ご自身でクリッピングポイントを外さないコーナーを目安にしてコース図と走行データを調整し、その対角線上近くにあるコーナーでも再度確認することで簡単に調整可能です。

	走行データを矢印でコース図に併せて軌跡補正をします。
--	----------------------------


6.5 コース図／コントロールライン設定、再設定

■ ツールバー


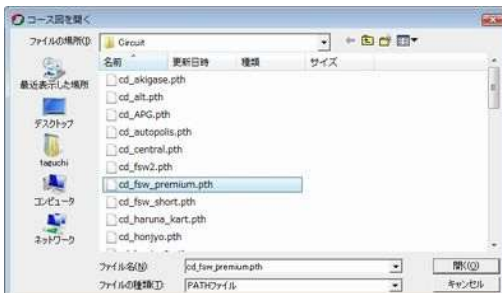
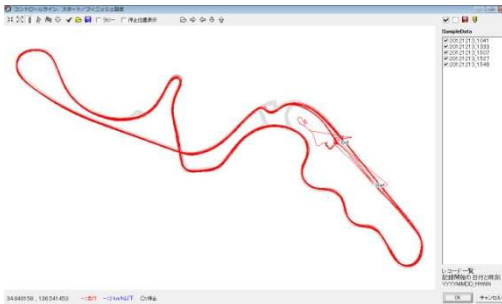



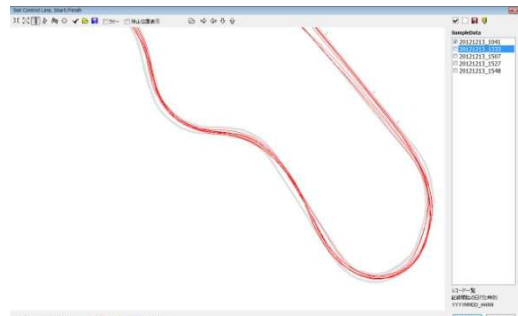

表示	詳細
	拡大表示・拡大表示解除(マウスのスクロールホイールにより拡大縮小が可能)
	コントロールライン設定(十字補助線を使い、コースと直角となるように調整してください。)
	スタート・フィニッシュ設定(ラリー、ヒルクライムなどスタートとフィニッシュが異なる場合に使用)
	コントロールライン スタート/フィニッシュ削除
	目印設定(ラリーなどで、緯度経度が分かっている時の目印に使用)
	コース図、コントロールライン検索
	コントロールライン スタート/フィニッシュ読込・保存
	コース図に対して走行データを合わせるヒント表示
	コース図表示
	ログした軌跡データをコースに合わせてシフトさせることができます。

6.5.1 コース図、コントロール検索

	<p>解析するサーキットのコース図とコントロールラインを再検索する。</p> <p>5km 圏内にあるサーキットの『サーキット選択』ウインドウが開きます。</p>
---	---


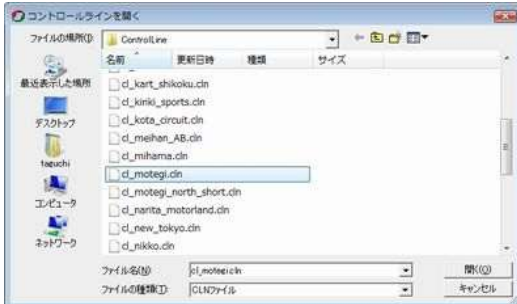
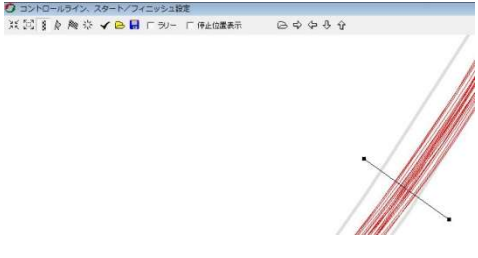

6.5.2 コース図 手動選択

	<p>解析するサーキットを選択する。</p> <p>「コース図、コントロール検索」で見つからない場合に使用します。</p>
	<p>サーキット名を選択して「開」を押す。</p>
	<p>走行データとコース図が全体表示</p>
	<p>複数のレコードがある場合は、必要なレコードだけを選択してから軌跡補正を行ってください。</p>

	<p>コース図と走行データを拡大表示</p>
	<p>走行データを矢印でコース図に併せて軌跡補正をします。 ※クリッピングポイントを外さないコーナーで、コースの対角となるような位置で合わせ込みを行います。</p>


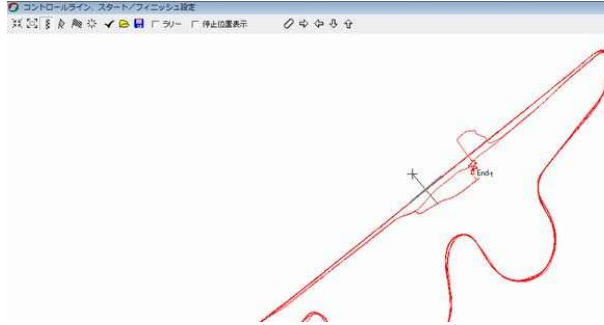
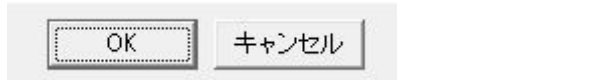
6.5.3 コントロールライン 手動選択

■インストール済みのデータ、またはご自身で作られたコントロールラインがある場合

	<p>『コントロールライン、スタート/フィニッシュ読込』を読み出す。 「コース図、コントロール検索」で見つからない場合に使用します。</p>
	<p>走行サーキットのコントロールラインデータを選択して 「開く」を押す。</p>
	<p>コントロールラインが黒線で引かれます。</p>
	<p>右下の OK を押してください。</p>

■コントロールラインが用意されていない場合

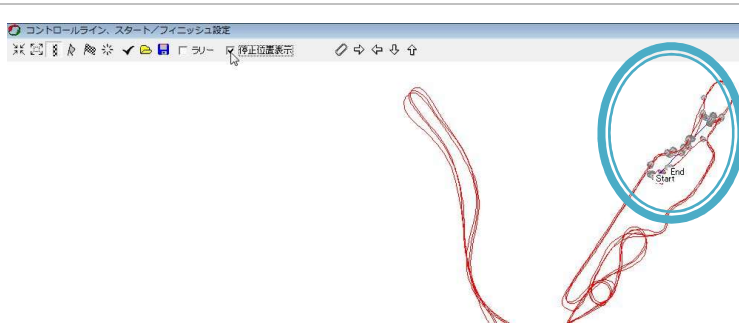


コントロールライン設定でコントロールラインを手動で設定してください。

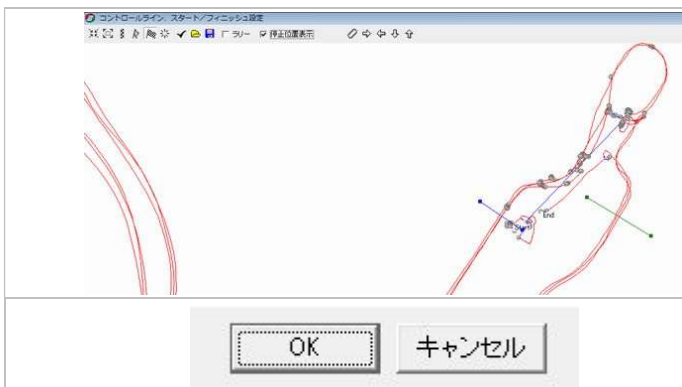
	<p>コントロールライン設定を選択</p>
	<p>コントロールラインの位置で、マウスを右クリックして、+マークの中心をコントロールライン位置に合わせて設定してください。</p>
	<p>右下の OK を押してください。</p>

■ラリー、スラローム、ヒルクライム：

スタート設定、フィニッシュ設定で位置を指定。

「停止位置表示」にチェックを入れると下図のように●が表示されますので、スタート/フィニッシュ位置が特定しやすくなります。

	<p>「停止位置表示」により、スタート/フィニッシュ位置を特定しやすくなります。</p>
	<p>スタート位置を設定する。</p>
	<p>フィニッシュ位置を設定する。</p>



スタート／フィニッシュ設定を設定

OK

キャンセル

右下の **OK** を押してください。

計測ライン設定後 **OK** を押すと、ラップごとの詳細データが【データ】タブの解析ウインドウに表示されます。

DigSpice							
ファイル(F) ヘルプ(H)							
グラフ データ ロガー							
※ [Icons]							
データ名	データ番号	日付	時刻	タイム	最高速 km/h	キロリ km	ファイル名
20150530_1020	0000	2015/05/30	10:20:22	2:24.199	219.98	4.120	sample_data
20150530_1020	0001	2015/05/30	10:22:46	1:58.615	240.37	4.515	sample_data
20150530_1020	0002	2015/05/30	10:24:44	1:57.448	239.92	4.525	sample_data
20150530_1020	0003	2015/05/30	10:26:42	2:21.485	221.46	4.511	sample_data
20150530_1020	0004	2015/05/30	10:29:03	1:57.673	242.31	4.528	sample_data
20150530_1020	0005	2015/05/30	10:31:01	2:29.731	224.01	4.483	sample_data
20150530_1020	0006	2015/05/30	10:33:31	6:38.077	220.70	4.515	sample_data
20150530_1020	0007	2015/05/30	10:40:09	1:57.994	243.06	4.519	sample_data
20150530_1020	0008	2015/05/30	10:42:07	2:46.379	222.51	4.506	sample_data
20150530_1020	0009	2015/05/30	10:44:53	3:01.841	218.48	4.513	sample_data
20150530_1020	0010	2015/05/30	10:47:55	1:56.381	238.85	4.512	sample_data
20150530_1020	0011	2015/05/30	10:49:51	4:39.776	226.62	4.846	sample_data

※解析データのタイム・最高速の好成績のものは色分けされて表示されます。


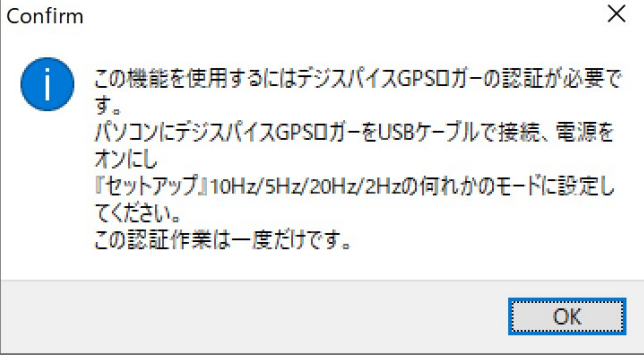

Best ピンク色 **2nd** 黄色 **3rd** 緑色

6.6 走行データ全クリア



表示中の走行データを全て消去する。

6.7 ログファイル読込

	<p>PC に保存済みのログデータ及びレコードデータの読み出し。</p>
<p>【ワーニング表示】</p> 	<p>この機能を使う場合は、最初にロガーを PC に接続し、ロガーを認証させる必要があります。</p> <p>パソコンと GPS ロガーを USB ケーブルで接続して、</p> <p>【ロガー】 > 【セットアップ】</p> <p>で、10Hz/ 5 Hz/20Hz/2Hz の何れかのモードに設定してください。</p>
<p>【ワーニング表示】</p> 	<p>Ver2.3.0 以前の旧バージョンのデジスパイスソフトで作成されたデータをご使用の場合に、認証作業が必要となる場合があります。</p> <p>デジスパイスを PC に接続して『認証』を押してください。</p> <p>※最終認証日以降に旧バージョンで作られたファイルを開こうとした場合に表示されます。認証日以前のファイルをご使用の場合には表示されません。</p>

6.8 読み込み済ログの表示

	<p>LAPまたはセクタを抜き出し保存済みのデータの読み出し。</p>
---	-------------------------------------

6.9 読込済ログの再表示



読込済みのログデータの再表示

6.10 データの選択



グラフタブで解析を行うデータを選択。
4つまでの走行データを選択可能です。

赤→青→緑→黄の順番に選択し色付けをします。

データ上をダブルクリックしても同様の動作が可能です。

解除は、選択中の走行データをダブルクリックすることで解除します。

6.11 走行データ保存



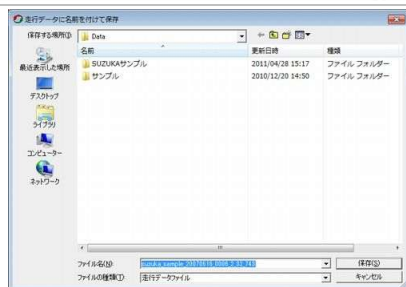
保存したい走行データを選択する。

この場合は

20150530_1020_1041_001

を選択しています。

選択されると点線で囲まれます。



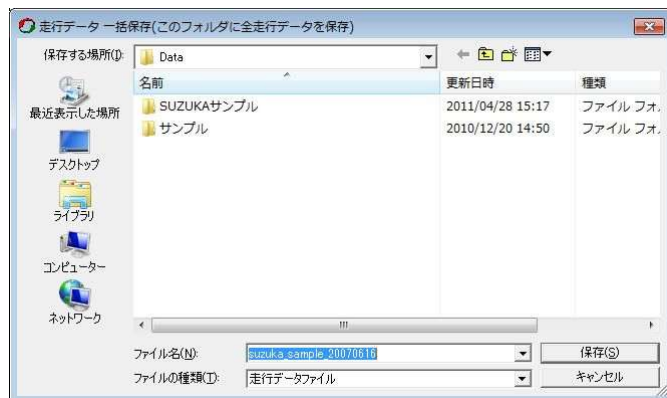
ファイル名の初期値は

データ名_データ番号+タイム
となります。

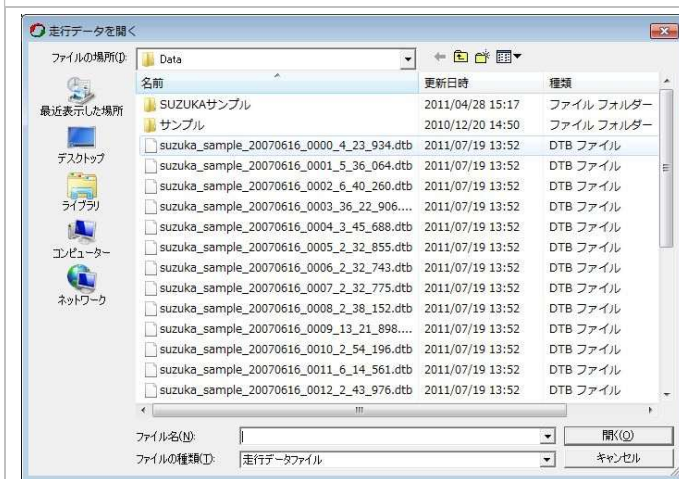
6.12 走行データ一括保存



表示中の走行データを一括保存します。



指定フォルダに一括で保存します。
整理し易い様にフォルダなどを作り
保存してください。
ファイル名の初期値は
データ名_データ番号+タイム
となります。



走行データ読込で保存データを確認
すると、
左図の様に、全走行データを一括で保
存されています。

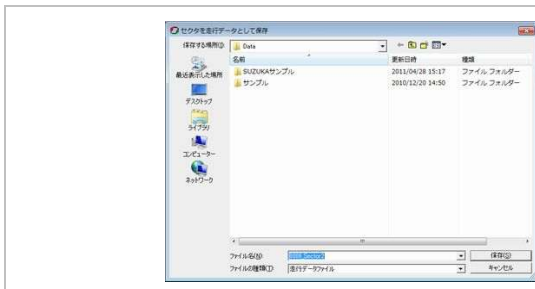
6.13 セクタを走行データとして保存

セクタ詳細	トリップ詳細				
-S1区間タイム	-S1区間ギョリ	-S1平均速度	-S1最高/低速	S1通過タイム	
*0:25.031	0.929	133.62	171.4 / 99.2	0:25.031	
0:25.238	0.928	132.35	169.8 / 97.5	0:25.238	
0:25.544	0.929	130.95	171.1 / 92.9	0:25.544	
0:25.031					

保存したいセクタを選択します。
この場合は、
赤のコントロールライン～1のデー
タを選択しています。



セクタデータを走行データとして保
存する。
※保存したいセクタをダブルクリッ
クしても同様の機能があります。



ファイル名を指定して保存します。
初期値は、
データ番号+セクタ番号
となります。

6.14 走行データ一覧を CSV ファイル保存



表になっている走行データを CSV
で保存します。

データ名	データ番号	日付	時刻	タイム	最高速 km/h	キロリ km
61_TT_GPS_200912131005	0000	2009/12/13	09:16:30	9:50:187	241.4	0.78
61_TT_GPS_200912131005	0001	2009/12/13	09:26:20	6:22:860	184.20	4.52
61_TT_GPS_200912131005	0002	2009/12/13	09:32:43	2:27:958	195.87	4.50
61_TT_GPS_200912131005	0003	2009/12/13	09:35:11	2:22:600	213.77	4.50
61_TT_GPS_200912131005	0004	2009/12/13	09:37:33	2:10:724	231.70	4.51
61_TT_GPS_200912131005	0005	2009/12/13	09:39:44	2:18:306	230.85	4.50
61_TT_GPS_200912131005	0006	2009/12/13	09:42:02	2:26:307	222.85	4.50
61_TT_GPS_200912131005	0007	2009/12/13	09:44:29	2:16:526	223.20	4.51
61_TT_GPS_200912131005	0008	2009/12/13	09:46:45	2:11:843	229.52	4.49
61_TT_GPS_200912131005	0009	2009/12/13	09:48:57	2:19:444	228.88	4.50
61_TT_GPS_200912131005	0010	2009/12/13	09:51:16	13:26:382	158.81	4.80

<CSV 元データ>

データ名	データ番号	日付	時刻	タイム	最高速 km/h	キロリ km
61_TT_GPS_200912131005	0	2009/12/13	9:16:30	09:50.2	24.14	0.78
61_TT_GPS_200912131005	1	2009/12/13	9:26:20	06:22.9	184.2	4.52
61_TT_GPS_200912131005	2	2009/12/13	9:32:43	02:28.0	195.87	4.5
61_TT_GPS_200912131005	3	2009/12/13	9:35:11	02:22.6	213.77	4.5
61_TT_GPS_200912131005	4	2009/12/13	9:37:33	02:10.7	231.7	4.51
61_TT_GPS_200912131005	5	2009/12/13	9:39:44	02:18.3	230.85	4.5

<CSV 出力フォーマット>

※タイムは 1/10 秒表示となっていますが、EXCEL の[セルの書式設定]

[ユーザー定義]で<mm:ss.0>を<mm:ss.000>に変更すれば 1/1000 秒まで表示されます。

走行データ一覧を Excel に直接貼り付けることもできます。

- ・走行データのタブを右クリックします。
- ・右クリックメニューから「全データをクリップボードへ (A)」を選択します。
- ・クリップボードにデータがコピーされます。
- ・Excel を開き、貼り付けたいセルを選択します。

DigSpice							
ファイル(F) ヘルプ(H)							
グラフ データ ロガー							
※ [Icons] NM							
データ名	データ番号	日付	時刻	タイム	最高速 km/h	キロリ km	ファイ
20220410_1207	0000	2022/04/10	12:07:01	1:47.696	168.70	3.403	DS4
20220410_1207	0001	2022/04/10	12:08:48	2:27.356	168.44	4.740	DS4
20220410_1207	0002	2022/04/10	12:11:16	2:27.719	166.39	4.753	DS4
20220410_1207	0003	2022/04/10	12:13:43	2:28.401	166.70	4.748	DS4
20220410_1207	0004	2022/04/10	12:16:12	1:27:18.970	165.04	4.743	DS4
20220410_1343	0005	2022/04/10	13:43:31	2:38.199	159.13	4.742	DS4
20220410_1343	0006	2022/04/10	13:46:09	2:27.344	160.43	4.730	DS4
20220410_1343	0007	2022/04/10	13:48:36	2:26.750	158.50	4.731	DS4
20220410_1343	0008	2022/04/10	13:51:03	全データをクリップボードへ(A) 表示対象データをクリップボードへ(S)			DS4
20220410_1343	0009	2022/04/10	13:53:30				DS4
20220410_1343	0010	2022/04/10	13:55:56	2:20.720	100.07	7.720	DS4

※タイムは 1/10 秒表示となっていますが、EXCEL の[セルの書式設定]

[ユーザー定義]で<mm:ss.0>を<mm:ss.000>に変更すれば 1/1000 秒まで表示されます。

6.15 走行データを CSV ファイルとして保存

DigSpice							
ファイル(F) ヘルプ(H)							
グラフ データ ロガー							
※ [Icons] NM							
データ名	データ番号	日付	走行データをCSVファイル保存				

CSV 保存したい走行データを選択する。

選択されると点線で囲まれます。

■ CSV 出力フォーマット

秒	時間	緯度	経度	距離(km)	標高(m)	速度(km/h)	旋回半径(m)	コーナリングG	加減速G	合算G
0	00:00.0	34.914307	134.218886	0	269.49	202.99				
0.035	00:00.0	34.914325	134.218884	0.002	269.49	203.25	1533.58	-0.22	0.2	0.297
0.135	00:00.1	34.914375	134.218879	0.008	269.44	203.92	2126.53	-0.114	0.209	0.238
0.235	00:00.2	34.914427	134.218873	0.013	269.4	204.72	3080.63	-0.054	0.213	0.22
0.335	00:00.3	34.914478	134.218867	0.019	269.37	205.5	3941.22	-0.019	0.212	0.212
0.435	00:00.4	34.914529	134.218861	0.025	269.3	206.16	4226.13	-0.025	0.207	0.208
0.535	00:00.5	34.914581	134.218855	0.031	269.26	206.91	4057.37	-0.03	0.188	0.19
0.635	00:00.6	34.914633	134.21885	0.036	269.23	207.49	3697.4	0.03	0.134	0.137

6.16 走行データの名前の編集

	CSV 保存したい走行データを選択する。 選択されると点線で囲まれます。
	走行データを管理しやすい名前に編集する。
	データ名変更後の表示

6.17 MOTEC CSV 読込

MoTeC、シミュレータ、ゲーム機などで作ることができる MoTeC 形式のログデータをデジスパイス解析ソフトで読込むことができます。デジスパイスで取得した実走行データと比較することができます。

シミュレータのデータは各ソフトから MoTeC データを出力保存してください。

※ソフトにより『i2 Standard』また『i2 Pro』いずれかの形式でダウンロードされます。

グランツーリスモのデータ出力方法は下記公式サイトをご覧ください。

※『i2 Pro』用の形式でダウンロードされます。

<http://www.gran-turismo.com/jp/gt6/manual/#!/replay/motec>

デジスパイス解析ソフトで読込ためには MoTeC で作られる【***.ld】ファイルを CSV ファイルに変換する必要があります。

下記に手順を示します。

1. 変換方法

MoTeC 社の無料解析ソフト『i2 Standard』また『i2 Pro』を使用します。

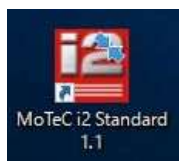
(注意) ダウンロードされた MoTeC データにより使用するソフトが異なりますのでご注意ください。

下記 URL の『Data Analysis』からお使いの PC に対応した (32Bit と 64Bit の 2 種類) のソフトが用意されています。)『i2』をダウンロード後にインストールしてください。

※本マニュアルでは『i2 Standard』で解説します。

ダウンロード用 URL <http://www.motec.com/software/latestreleases/>

インストール完了するとデスクトップに『MoTeC i2 Standard』アイコンができます。

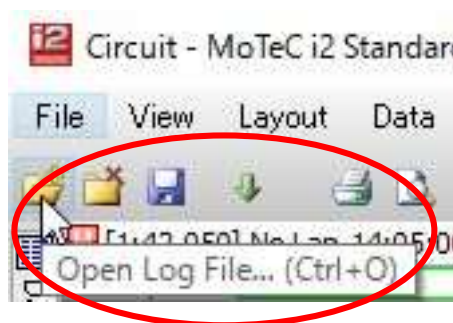
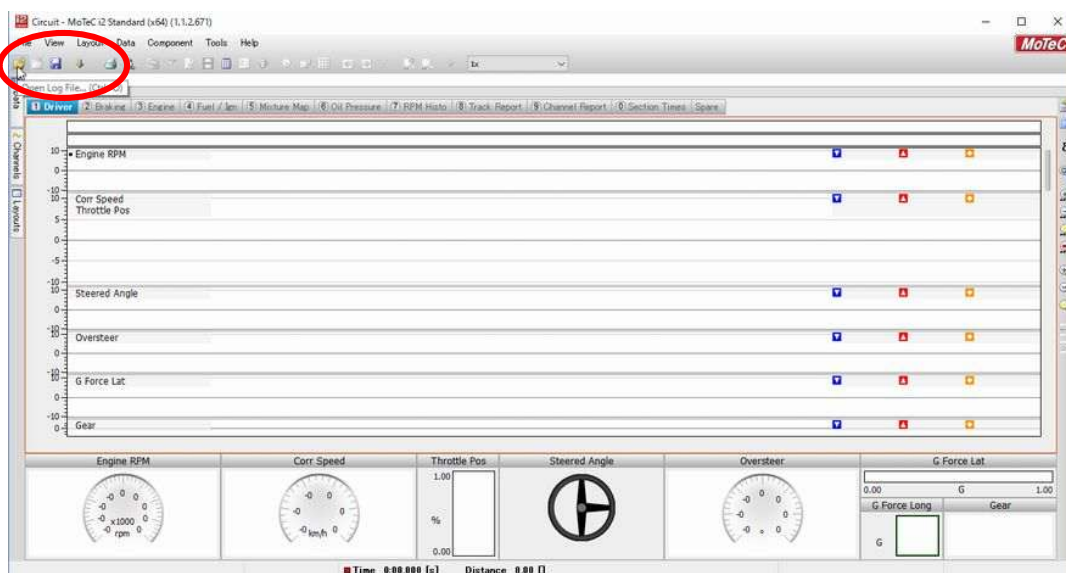


2. 『MoTeC i2 Standard』をダブルクリックで立ち上げます。

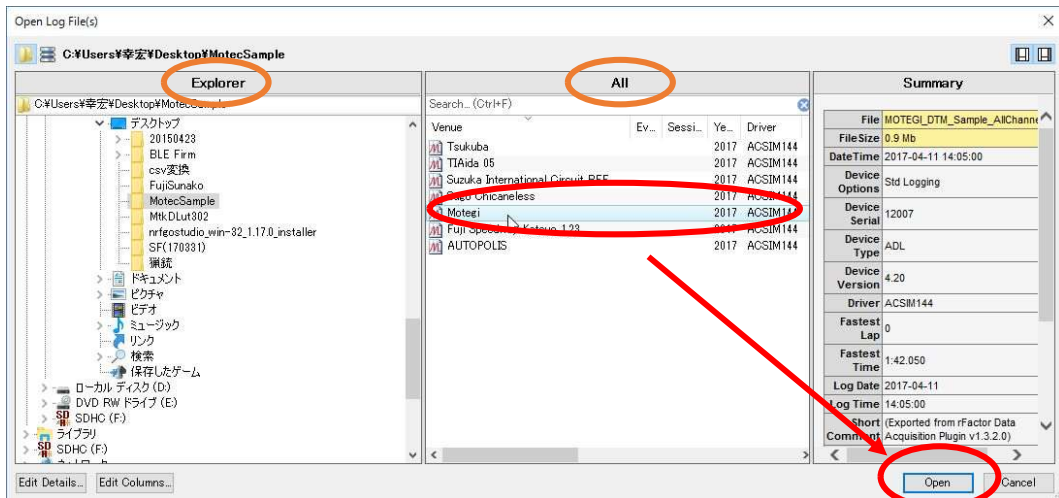
2.1 「Circuit Workspace」を選択する。



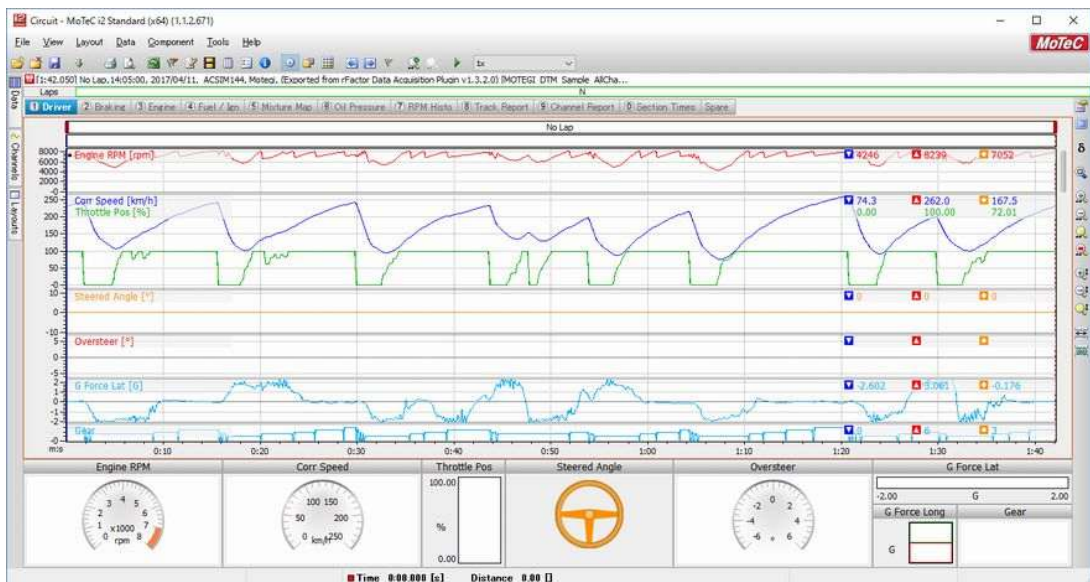
2.2 左上の「File」を押し「Open Log File」を選択する。



2.3 左の「Explorer」ウィンドウから MoTeC データの入ったフォルダを選択する。
右の「All」ウィンドウから開きたいログデータを選択後、右下の《Open》をクリックする。

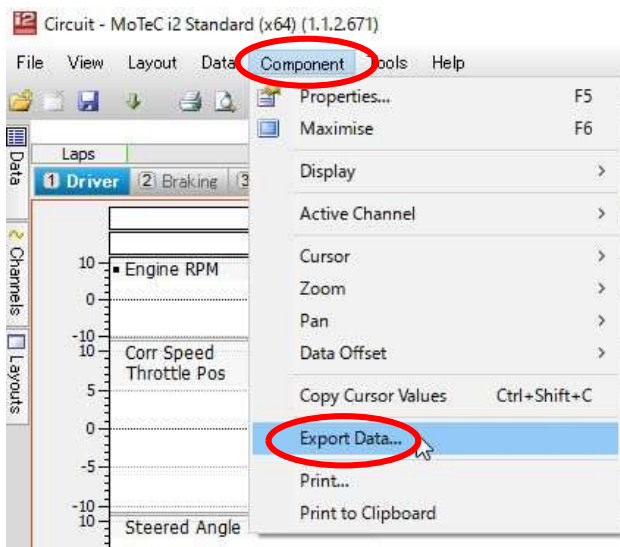
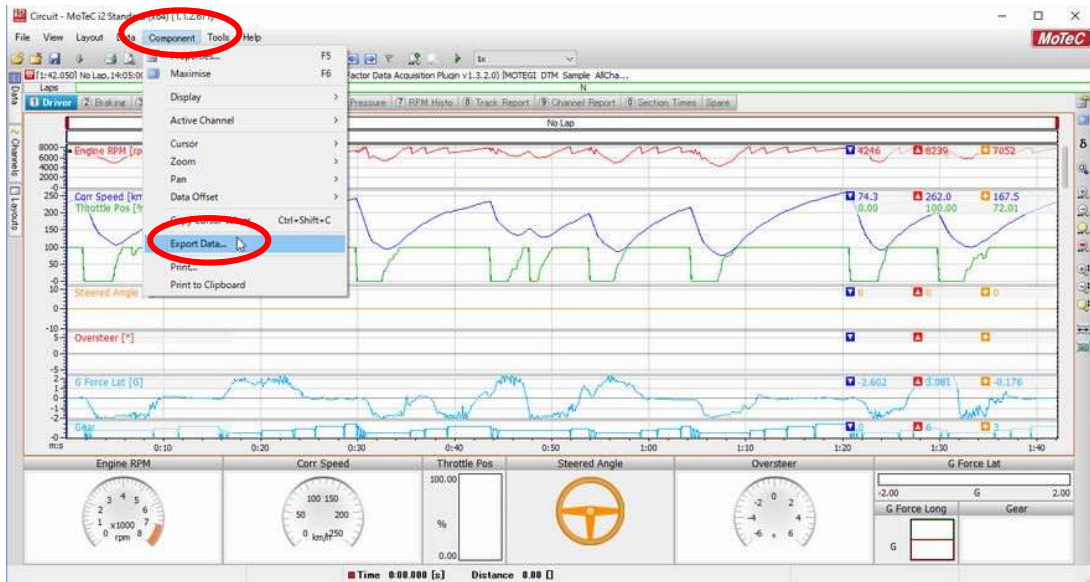


2.4 チャート、グラフが表示されます。



2.5 CSV ファイルにエクスポート（出力）

Component>ExportData を選択する。



2.6 CSV ファイルの形式を指定する。

Time/Distance Data Export

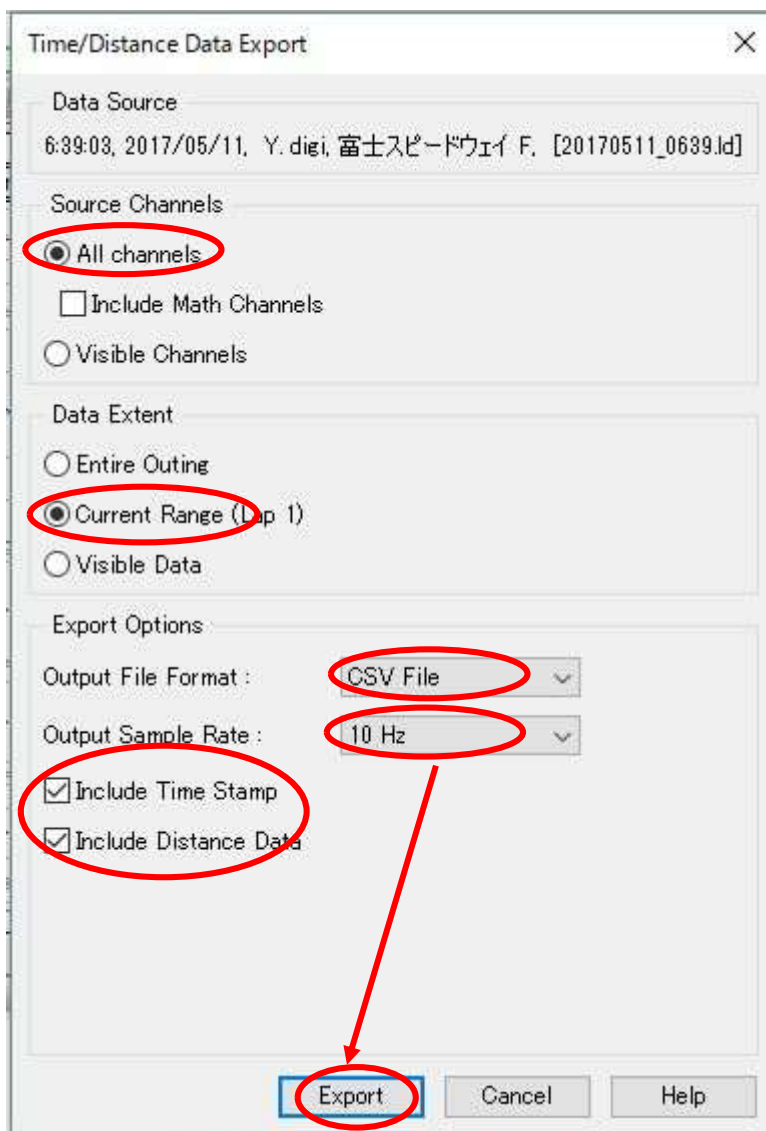
Data Source
6:39:03, 2017/05/11, Y.digi, 富士スピードウェイ F. [20170511_0639.ld]

Source Channels
☒ All channels
☐ Include Math Channels
☐ Visible Channels

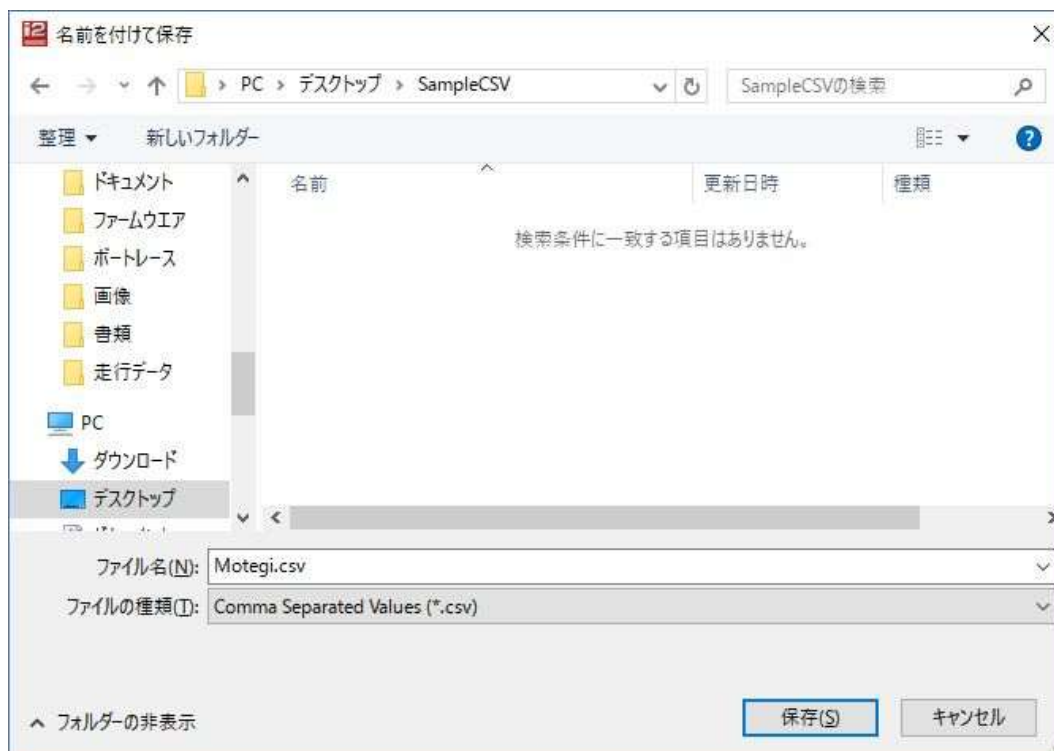
Data Extent
☐ Entire Outing
☒ Current Range (Lap 1)
☐ Visible Data

Export Options
Output File Format : CSV File
Output Sample Rate : 10 Hz
☒ Include Time Stamp
☒ Include Distance Data

Export Cancel Help



2.7 適当なフォルダにファイル名を指定して保存する。

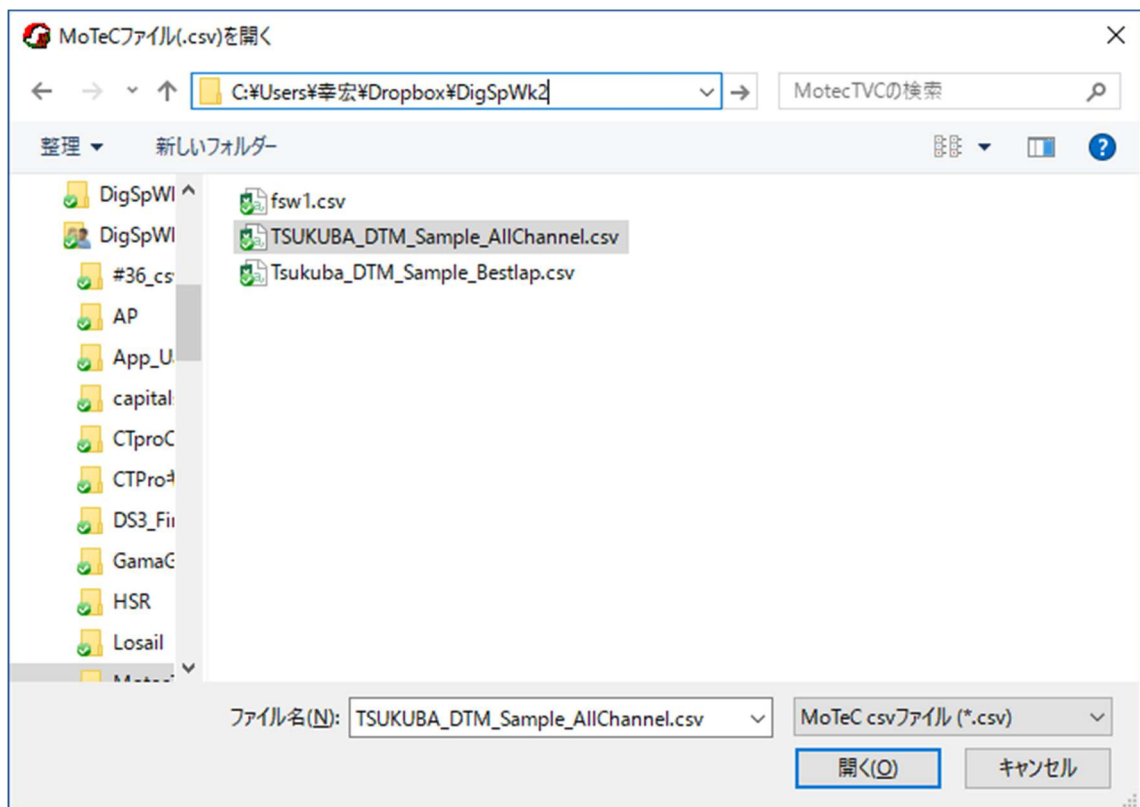


3. デジスパイス解析ソフトで読込

解析ソフトの【データ】 > 【MoTeC ファイル(csv)読込】を選択する。



選択ウインドウが開くので、2 項で変換した CSV ファイルを選び、右下の開く<O>を押す。



デジスパイス解析ソフトに MoTeC データを入れ込むことができます。

(注意)

1. シミュレータやグランツーリスモのログデータは、実走行して取得したデジスパイスデータと距離及びコーナーなどの形状が異なる場合があります。
そのため、デジスパイスで取得したデータと一緒に表示する場合、ズレが生じる可能性があります。
2. シミュレータで取得したデータは距離やコーナーの形状が実走行とズレが発生することがあるため右下のアニメーションウインドウには MoTeC データに変換したものは表示されません。
3. グランツーリスモで取得したデータは位置情報が実走行に近いので右下のアニメーションウインドウに表示され通常のデジスパイスで取得したデータと同様に扱えます。
また、このデータを読み込むためにはデジスパイスを接続しセットアップを実行する必要があります。
4. データ TAB で赤色に選択されたデータを基準に、シミュレータやグランツーリスモの距離を補正します。
5. 解析ソフトの中で、セクタの設定など一部機能が使えません。

3. エラー及び警告表示

4.1 緯度経度データを含む CSV ファイルを開こうとすると表示されます。

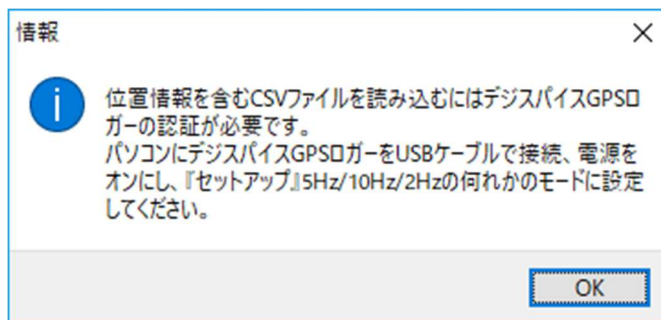
■対応方法

デジスパイスロガーを USB 接続し

【ロガー】タブ>セットアップ（10Hz/5Hz/20Hz/2Hz）

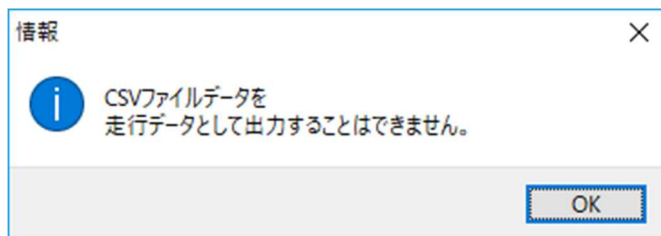
を実行すれば認証され読み込めるようになる

解析アプリを終了させると認証はリセットされます。

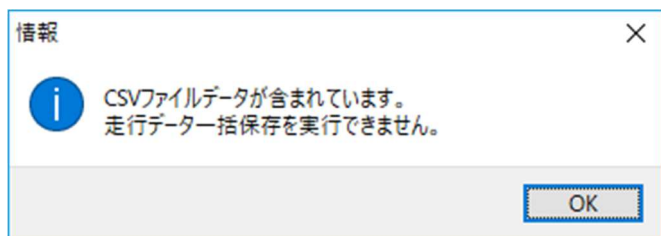


4.2 CSV ファイルデータを走行データとして保存しようとする则表示されます。

CSV ファイルデータのセクタデータを走行データとして保存しようとする则表示されます。



4.3 走行データ一覧に CSV ファイルデータがあるときに、走行データ一括保存を実行しようとする则表示されます。



4.4 おことわり

※グランツーリスモは株式会社ポリフォニー・デジタル及び株式会社ソニー・インタラクティブエンタテインメントの登録商標です。

※MoTec は MoTec Pty Ltd の登録商標です。

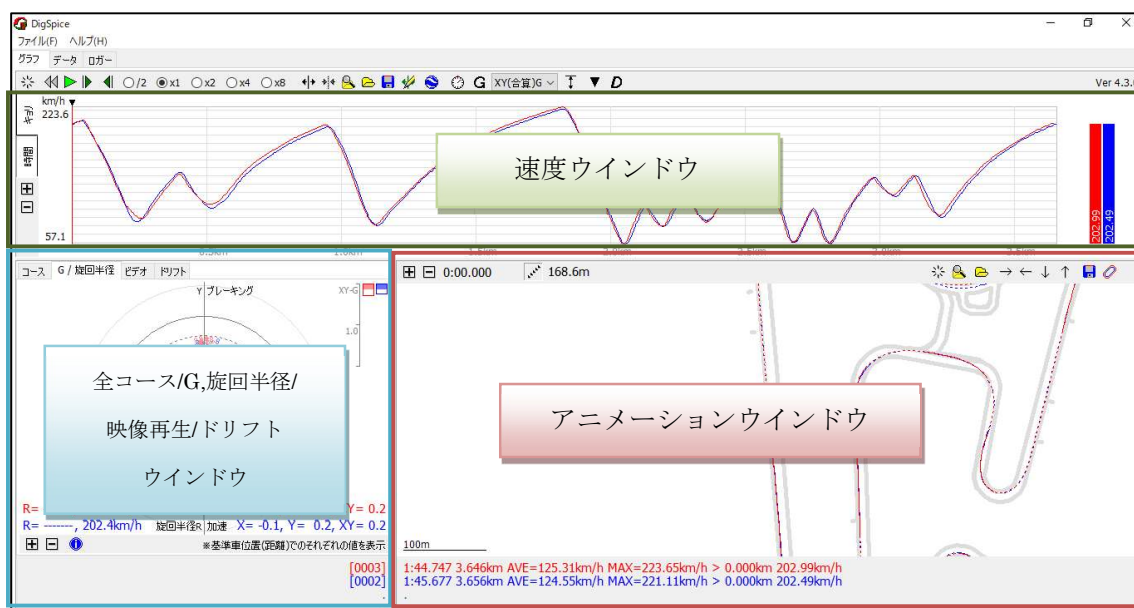
6.18 NMEA ファイル出力

NMEA ファイルは汎用性の高いプロトコルで、主に GPS 受信機のデータをその他の機器と接続するためのプロトコルです。

このファイルを利用することで、動画合成ソフトなどにデジスパイスで取得したデータを動画と一緒に同期することができます。


7.詳細解析

【グラフ】

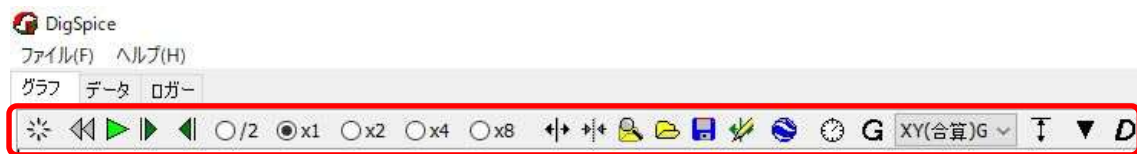


7.1 表示解説（スイッチ）

7.1.1 タブ

	<p>グラフ 走行データの解析</p> <p>データ 走行データの入出力</p> <p>ロガー ロガーの設定</p>
---	--

7.1.2 グラフツールバー



表示	詳細
	表示データクリア
	再生時間リセット
	再生/停止 (スペースバー)
	コマ送り/コマ戻し (Fキー/Bキー)
	再生速度
	セクタ 設定/解除
	セクタ自動検索
	セクタ 読込/保存/調整
	走行ラインをグーグルアースに出力
	タイム差 表示/非表示
	G表示を選択可能 XY(合算) G X(横) G Y(縦) G
	標高 表示/非表示
	セクタ位置で速度グラフの横軸（距離）及びアニメーションウィンドウの車両位置を合わ
	ドリフトアングル 表示/非表示

※GoogleEerth はインターネットに接続されている状態でご利用ください。

※SPACE キーで再生/停止、F キーでコマ送り、B キーでコマ戻し。

7.1.3 セクタ設定方法

速度グラフの赤線または赤車両を使用して、セクタを設定するには以下の手順を参考にしてください。

1. 速度グラフ上で、赤線または赤車両を目的の位置にドラッグします。これがセクタの位置になります。
2. 「セクタ設定」ボタンを押します。
3. 速度グラフには縦の点線が表示され、下に[S1]～[S4]までのセクタ番号が表示されます。これにより、セクタの位置が確認できます。
4. アニメーショングラフには、コース上にグレーの線が引かれて、セクタの位置が示されます。

このようにして、最大4か所までセクタを設定することができます。セクタの設定は、速度グラフ上で赤線または赤車両をドラッグしてセクタの位置を指定し、セクタ設定ボタンを押すことで完了します。



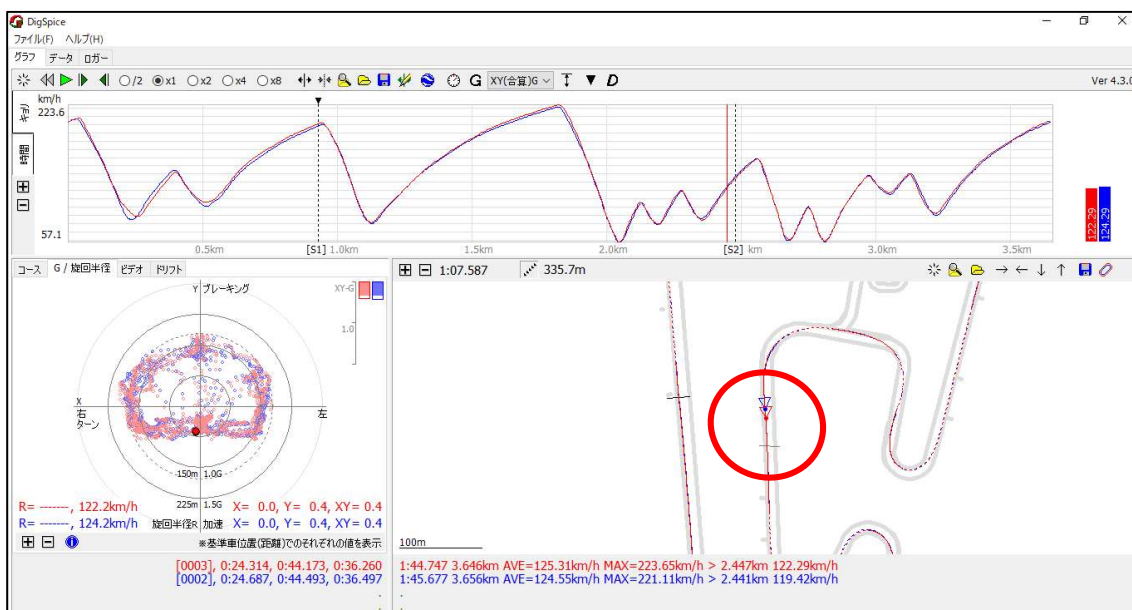
セクタを設定すると、【データ】タブに、ラップごとのセクタタイムが表示されます。

データ名	データ番号	日付	時刻	タイム	最高速 km/h	キロ km	ファイル名	セクタ1	セクタ2	セクタ3	ラップ時間
20220708_1330	0000	2022/07/08	13:30:08	1:53.252	214.61	3.652	DEMO_Okayama	30.017	46.263	36.972	
20220708_1330	0001	2022/07/08	13:32:01	1:45.677	221.11	3.656	DEMO_Okayama	24.687	44.493	36.497	
20220708_1330	0002	2022/07/08	13:33:47	1:44.747	223.65	3.646	DEMO_Okayama	24.314	44.173	36.260	
20220708_1330	0003	2022/07/08	13:35:32	3:45.888	221.86	3.679	DEMO_Okayama	24.047	44.511	2:37.330	

7.1.4 セクタ位置からの同時スタート機能

走行データを再生する際に、アニメーションウィンドウにおいて車両がタイム差により異なる位置を走行することがあります。

走行データを再生すると、実際の走行時のタイム差や速度の違いが再現されます。そのため、車両の位置もタイム差に応じて異なります。

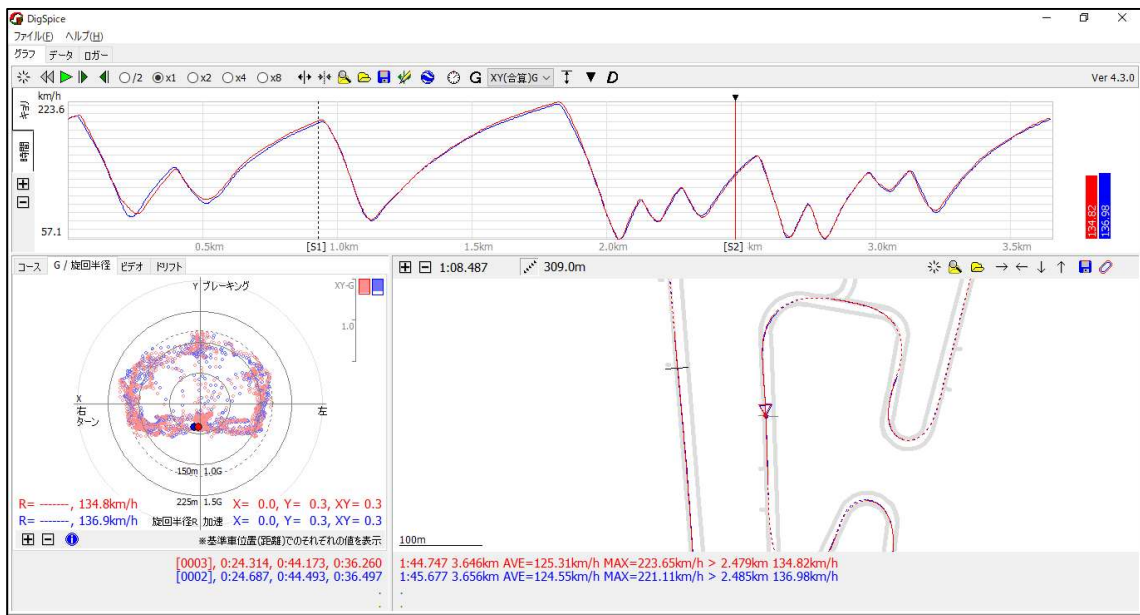


赤車両の位置から2台の車両を再スタートさせるためには、再スタートさせたい位置に『セクタ設定』でセクタを設定します。

まず、速度グラフの赤線または赤車両を赤車両の位置に持っていきます。そして、「セクタ設定」ボタンを押します。すると、速度グラフには縦の点線が表示され、下に[S1]～[S4]までのセクタ番号が表示されます。

次に、速度グラフ上にある「▼」のボタンを押します。これにより、2台の車両がセクタ位置でそろいます。

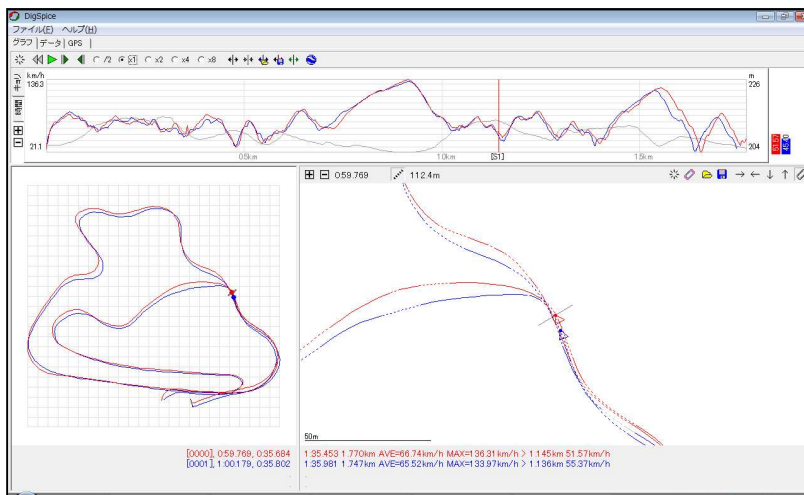
再生 (▶) を押せばその位置からアニメーションが再スタートします。

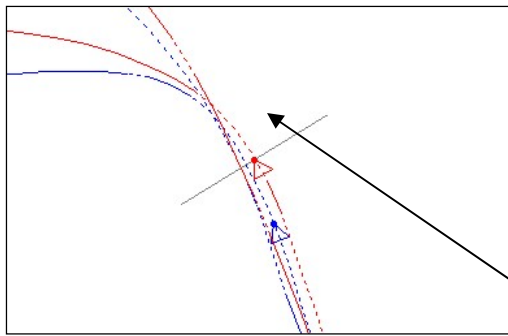


7.2 複数回、同じ地点を通るときのセクタ設定

主にスラローム競技（ジムカーナ、ダートトライアルなど）で使います。

セクタの設定において同一地点を複数回通過する場合、2回目以降の通過を計測する機能
基準車を2周目(あるいはそれ以降)の位置へもっていきセクタを設定します。





2回目の通過を計測

-S1 区間タイム	-S1 区間キョリ	S1 通過タイム	S1 通過速度	S1-区間タイム	S1-区間キョリ	タイム
0:59.769	1.145	0:59.769	51.57	0:35.684	0.625	1:35.453
1:00.179	1.142	1:00.179	48.65	0:35.802	0.605	1:35.981

7.3 設定したセクタの調整機能

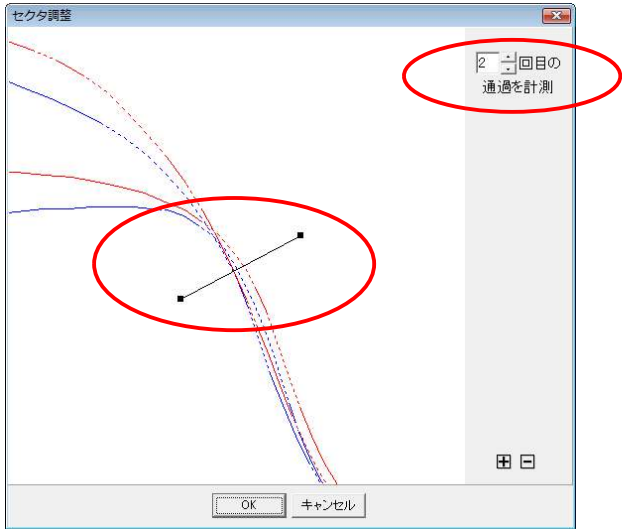
セクタを設定し、下記ボタンをクリックします。



調整するセクタを選択します。



位置と何回目の通過を計測するかを指定します。

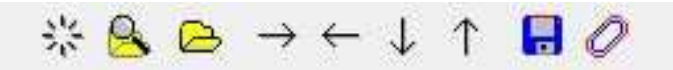


周回を変えることで、セクタ番号が入れ替わる場合がありますのでご注意ください。

■をマウスでドラッグしゲートを移動します。

何回目の通過を計測するかを指定します。

7.4 アニメーションウィンドウのアイコン


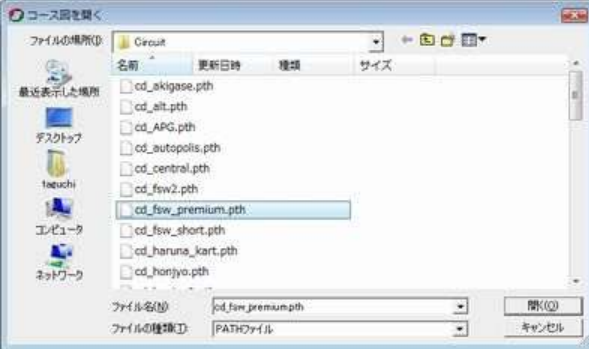
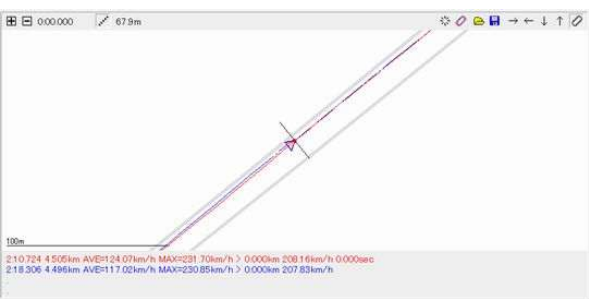


表示	詳細
☼	表示データクリア
🔍	コース図検索
📁 💾	コース図ファイル読込／保存
➡ ⬅ ⬇ ⬆	コース図調整
🔗	コース図作成


7.4.1 コース図検索

	<p>解析するサーキットのコース図を検索します。</p> <p>5km 圏内に複数のサーキットがあるときは『サーキット選択』ウィンドウが開きます。</p>
--	---

7.4.2 コース図ファイル読込/保存

	<p>サーキットのコース図を選択表示する。</p>
	<p>サーキット名を選択して「開」を押す。</p>
	<p>アニメーションウィンドウにサーキットが表示される。</p> <p>※コース図は走行データが選択されていないと表示されません。</p>

7.4.3 コース図調整

	<p>矢印スイッチでコース図の微調整を行うことができます。</p>
---	-----------------------------------

7.4.4 コース図ファイル保存

	<p>修正したコース図を保存する。</p>
---	-----------------------

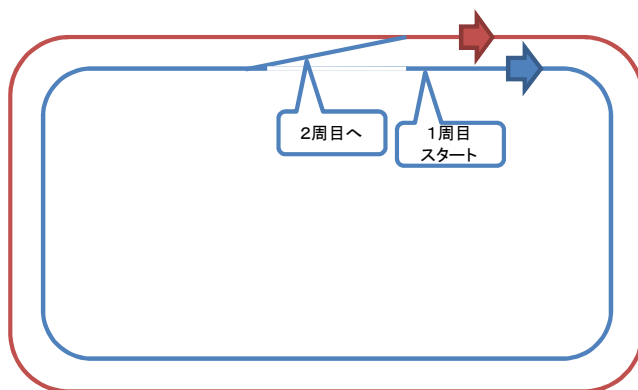
7.4.5コース図作成



独自のコース図を作成することができます。

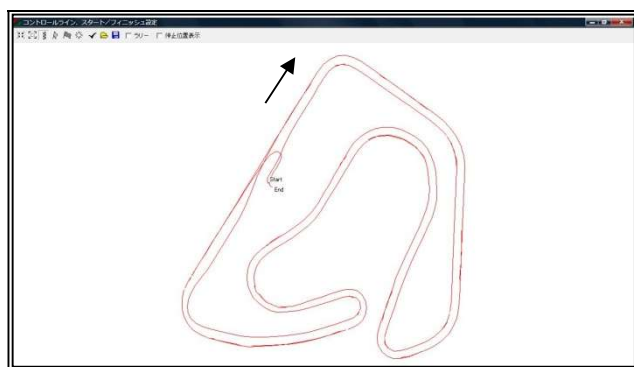
コース図を作成するときは、下記要領で行ってください。

- ① 30Km/h 以上の速度でコースの内側を一周する。(徒歩など遅い速度では正確にデータを取ることができません。)
- ② 直線でコース外側へ移動して外側を一周する。(下図イメージ参照)

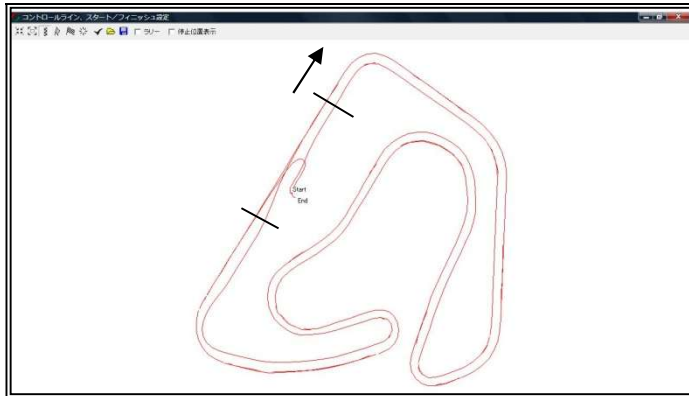


※外側と内側のどちらを先に走行しても可。

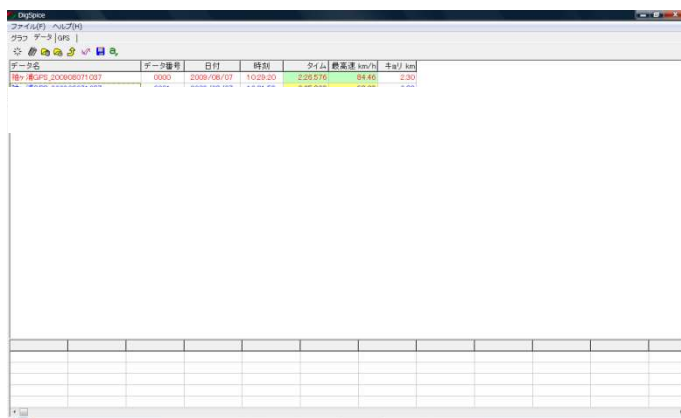
③ 実際のデータ例



- ④ スタート/フィニッシュを設定交差している直線部分を除いてスタート/フィニッシュを設定してください。



⑥ **OK**でラップデータを表示す



内側と外側の走行データを選択してください。

⑦ コース図作成



交差部分を除いて表示されます。

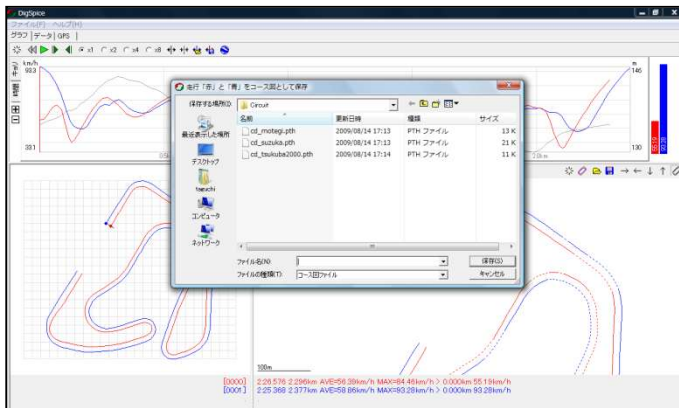


コース図作成ボタンを押す。

この作業により途切れていたコース図がつながれます。

⑦コース図を保存

作成したコース図に名前を付けて保存します。



⑧完成したコース図

保存したコース図を呼び出すと、下記のように途切れていた部分がつながりコース図となります。

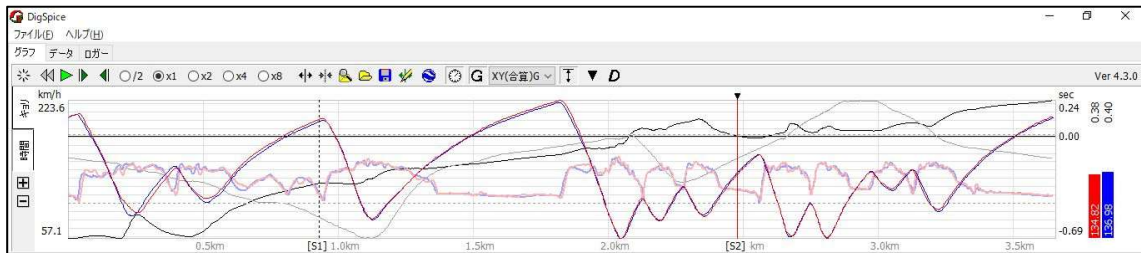


国内外のサーキットは、<https://dig-spice.com/jp>よりダウンロード可能（逐次 UP 中）

7.5 ウィンドウ

各ウィンドウは、マウスで境界線を掴むことで、拡大/縮小を自由にすることが可能です。

7.5.1 速度ウィンドウ



【データ】で選択された解析データを色別に 4 台までグラフ表示する。

横軸：走行距離/走行時間（切換可能）

縦軸：速度、タイム差、標高、G（合算 G、横 G、縦 G）

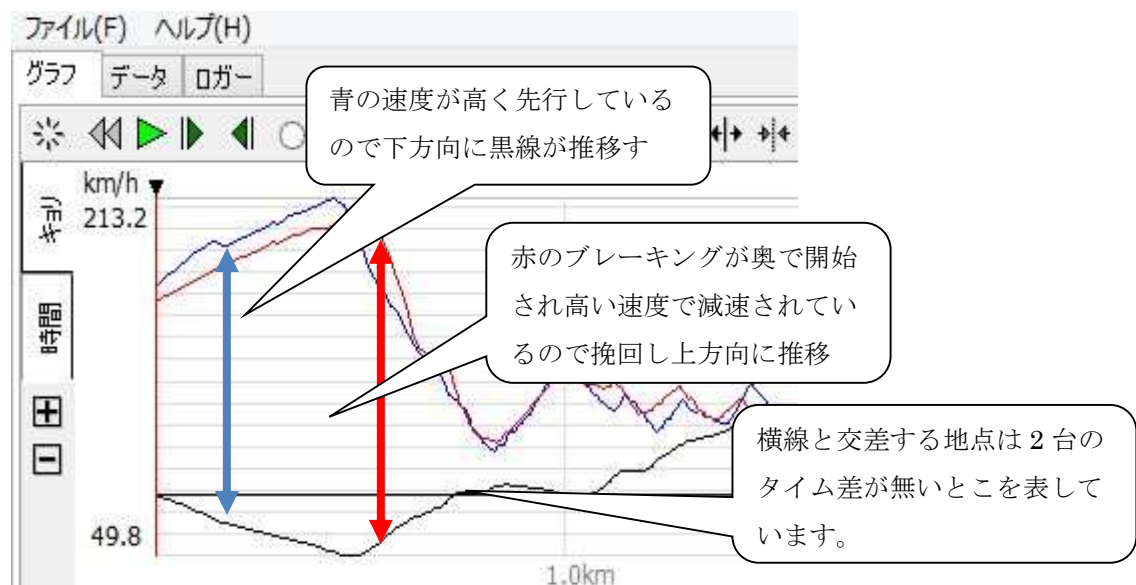
（タイム差は横軸が距離のときのみ）

7.5.1.1 時計マーク 黒線（一）

赤の車両を基準とし青の車両とのタイム差を示しています。

上方向に伸びたときは、赤車両が青に比べて速い（タイムを稼いだ）、下方向に伸びた場合は逆に青車両が速い（タイムロスしている）ことを示しています。

コントロールライン上のタイム差はゼロ、その後走行をはじめるとタイム差がでてきます。



タイム差グラフは走行距離の違いにより誤差を生じます。

セクタを設定することでその地点でのタイム差を正しい値に合わせますので、赤車両と青車両の走行ラインが異なっている地点にセクタを設定するとよいでしょう。

特定の区間（ひとつのコーナーなど）のタイム差遷移をより正確に表示させたい場合は、その区間の前後（さらに中間）にセクタを設定して下さい。

7.5.1.2 ▼速度グラフの基点。

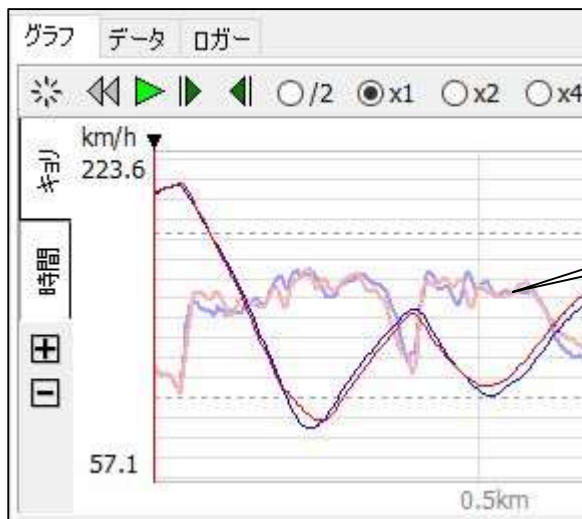
この印の位置では、全表示車両の走行軌跡と速度グラフが一致していることを示しています。基準となる赤車両の走行軌跡と速度グラフは常に一致していますが、ある地点で赤車両と他の車両の速度を比較した場合、そこまでの走行距離の違いからズレが生じることがあります。セクタを設定し、▼ボタンをクリックすることで、そのセクタを速度グラフの基点として設定することができます。これにより、当該セクタを中心に速度の変化をより正確に比較することができます。

7.5.1.3 グレー線（－） 標高を表示しています。

7.5.1.4 太い赤、青線（4 データ選択の場合は、緑、黄が追加される）

G を表示しています。

表示は縦横の合算、横 G、縦 G から選択可能

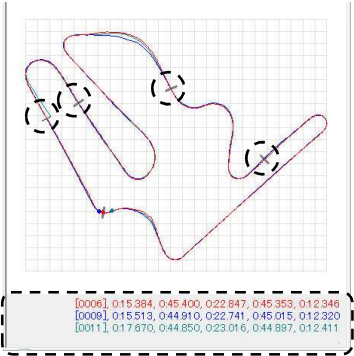


グラフ上をダブルクリックすると、ポジションラインが表示され、その時点の速度を右端の棒グラフに表示します。

⊕ ⊖ またはスクロールホイールにより、ポジションラインを中心に拡大/縮小が可能です。

7.5.2 全コース/G・旋回半径ウィンドウ/ビデオ/ドリフト

7.5.2.1 全コースウィンドウ



【データ】で選択された解析データをグラフィック表示する。

○は、任意にセクタ設定された場所を示しています。

□は、セクタの所要時間を示しています。

※ セクタの詳細情報は、【データ】タブで見ることができます。

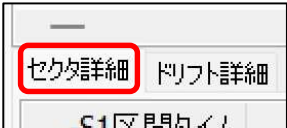
DigSpice

ファイル(F)ヘルプ(H)

グラフデータロガー

<

<セクタ詳細/ドリフト詳細>



TABで【セクタ詳細】と【ドリフト詳細】を選択できます。

ドリフト詳細については『ドリフト取扱説明書』をご覧ください。

セクタ詳細では、選択されたラップのセクタの区間タイム、区間キョリ、平均速度、最高速度/最低速度、通過タイムを表示しています。

ベストには【※】を着けています。

区間タイムの一番下のタイムはその区間のベストタイムで、一番右にはその合計した仮想ベストタイムが表示させています。

セクタ詳細	ドリフト詳細							
-S1区間タイム	-S1区間キョリ	-S1平均速度	-S1最高/低速	S1通過タイム	S1-2区間タイム	S1-2区間キョリ	S1-2平均速度	S1-2最高/低速
*0:24.314	0.930	137.67	207.5 / 88.4	0:24.314	*0:44.173	1.549	126.27	223.6 / 57.0
0:24.687	0.936	136.42	206.9 / 84.8	0:24.687	0:44.493	1.550	125.39	221.1 / 57.6
0:24.314					0:44.173			

仮想ベストタイム

S4-平均速度	S4-最高/低速	タイム
113.90	204.5 / 58.2	1:44.747
113.46	202.9 / 57.7	1:45.677
111.95	202.4 / 57.1	1:53.252
		1:44.607

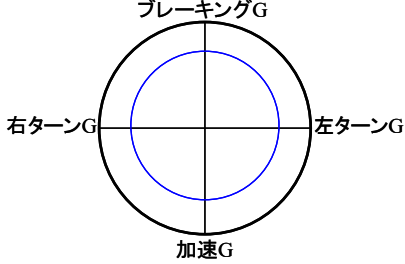
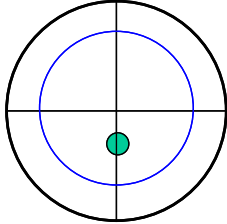
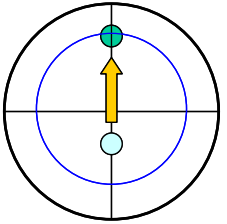
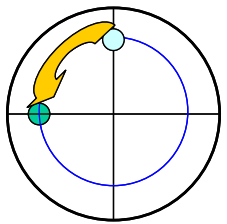
7.5.2.2G/旋回半径

G フォース及び旋回半径を表示します。

(注意)

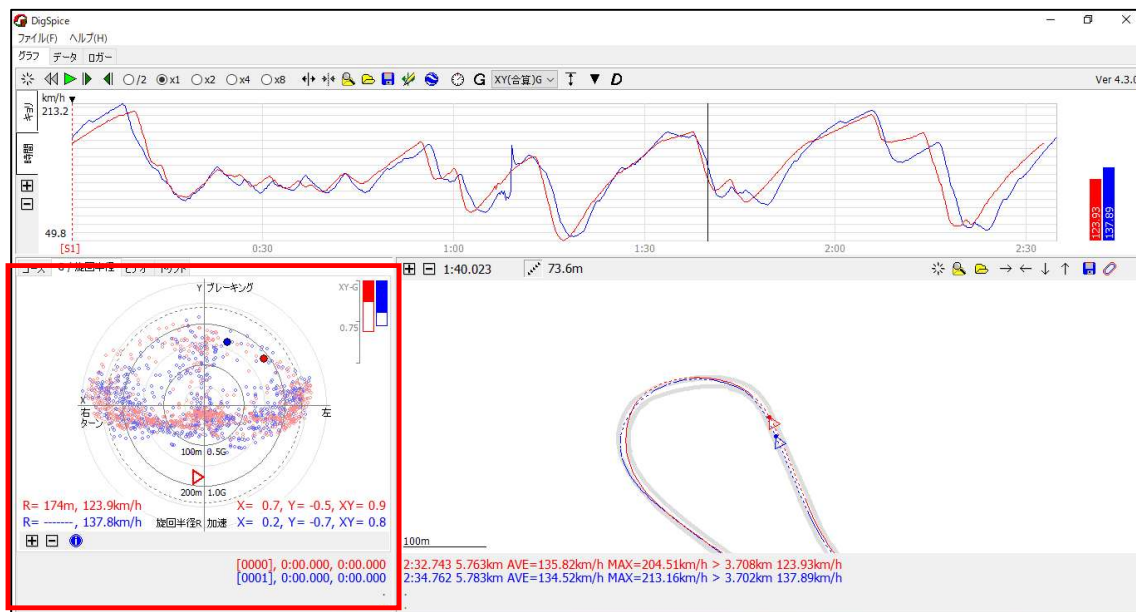
本データはロガーが記録した速度と平面座標、およびサンプリング周期から計算された値です。センサーによる検出値ではありません。記録時の電波受信状態によって誤った値が算出される可能性があります。

【フリクションサークル（摩擦円）】

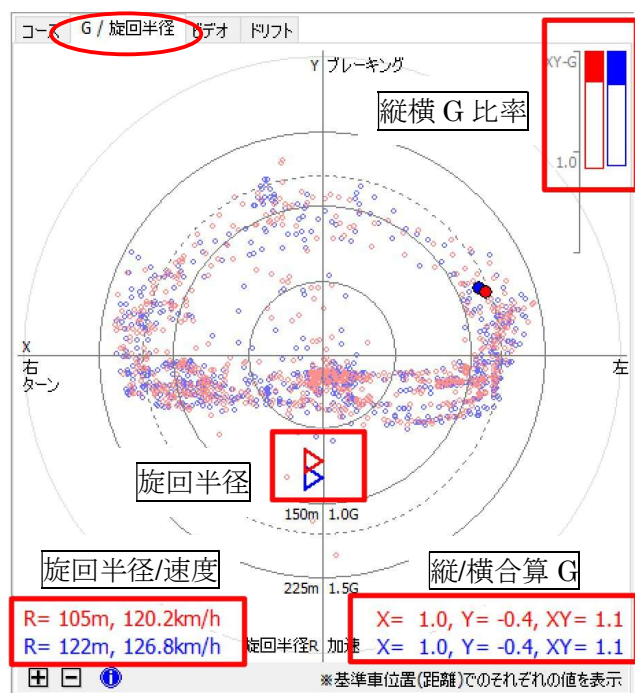
	<p>加減速 G を縦軸、コーナリング G を横軸に表した図表。</p> <p>※青線の円はタイヤの限界 G を表しています。</p> <p>タイヤ性能が高いほど円は大きくなります。</p> <p>同じタイヤでも路面のグリップが低ければ円は小さくなります。</p> <p>加速または減速に 100 の能力を使えばコーナリング能力は 0 となり、コーナリングに 100 使えば加減速の能力は 0 となります。</p>
 <p>加速時</p>	<p>■加速時</p> <p>加速時は、加速側に発生します。</p> <p>加速性能が優れているほど、大きな G が発生します。（ドライ路面において加速時にタイヤの限界 G に達することはまずありません。）</p>
 <p>加速→ブレーキング開始</p>	<p>■減速時</p> <p>加速から減速状態に移ると、ブレーキング方向に変位します。</p> <p>より短い時間でより多くの減速ができれば大きな G が発生します。フルブレーキングして、タイヤがロックする寸前にある状態が減速の限界です。</p>
 <p>ステアリングを一番切った状態</p>	<p>■コーナリング時</p> <p>フルブレーキング状態から、減速を弱めつつステアリング切り込んでいくことでコーナリングに移ります。</p> <p>コーナー頂点ではステアリングの切り角は最大となり、ブレーキもアクセルの踏んでいない状態となります。</p> <p>ここからステアリングを戻しながらアクセルを開けていきます。</p> <p>このとき、縦横 G の総和が青の円周に沿って変化するとタイヤ性能を使い切っているといわれています。</p>

【グラフ】

(例) 鈴鹿サーキットの走行データを解析 (2 台)



【G/旋回半径】



【G/旋回半径 グラフ】

■G フォース

X 軸：左右のコーナリング G

Y 軸：縦の加減速 G

※この散布図を一般的にはフリクションサークル（摩擦円）と呼びます。

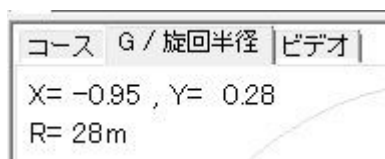
薄い赤○、青○は解析を行なっている 2 台分の全データの G 分布を表示しています。
 濃い大きな赤○、青○は上部横長の速度グラフの横軸が、
 「距離」ならば、基準車位置（赤車両）のそれぞれの旋回半径、速度、左右 G、合算 G
 「時間」ならば、その時点の車両の旋回半径、速度、左右 G、合算 G
 を表示しています。

■旋回半径

赤、青▶は速度ウインドウ内、赤縦線ポイントの旋回半径（m）を示しています。
 同じコーナーでも、ライン取りにより旋回半径は異なってきます。
 速度グラフの横軸が、
 「距離」ならば、基準車位置（赤車両）での旋回半径
 「時間」ならば、その時点のそれぞれの車両の位置における旋回半径
 を表示しています。

■G 及び旋回半径数値表示

マウスカーソルを合わせた位置の G 及び旋回半径の値を表示させます。



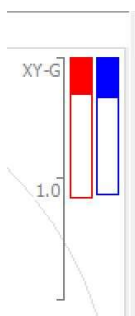
数値説明

X=0.39 （左右コーナリング G）

Y=0.79 （加減速 G）

R=79m （旋回半径）

■現在の各々数値表示及び縦横 G の比率



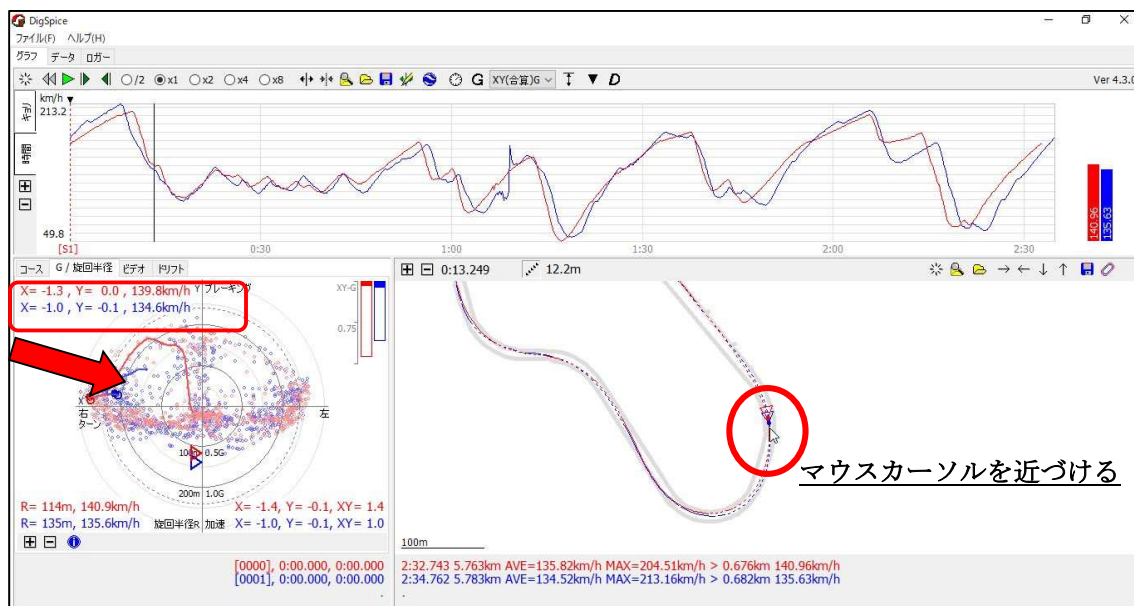
縦横 G の比率を表しています。

全体 ：縦横合算 G

色付き：縦 G

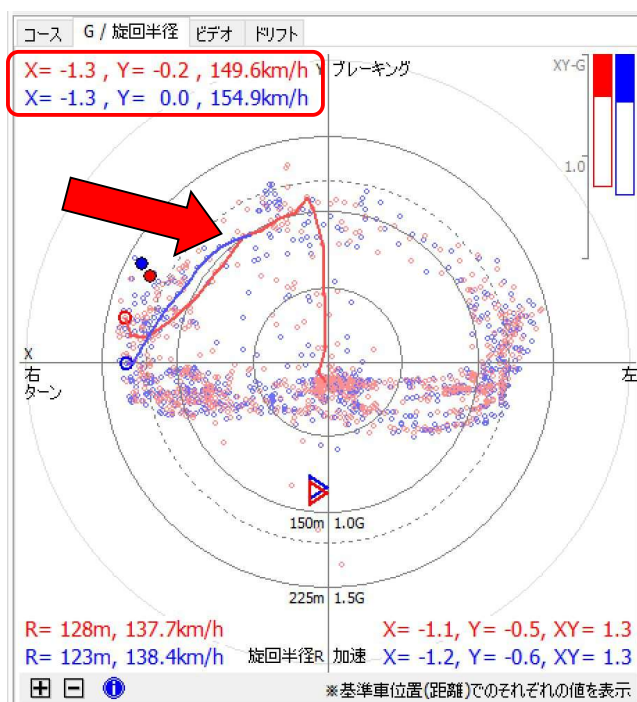
色なし：横 G

■速度、G 表示



アニメーションウインドウの走行軌跡にマウスカーソルを持っていくと、カーソルに一番近い地点の G および速度を車両別に G/旋回半径ウインドウに表示します。(赤囲い)

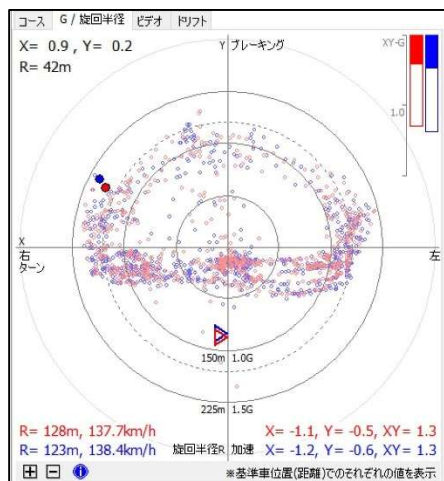
また、その地点までの前 2 秒間の G の推移を表示します。(赤、青色の車両データのみ)



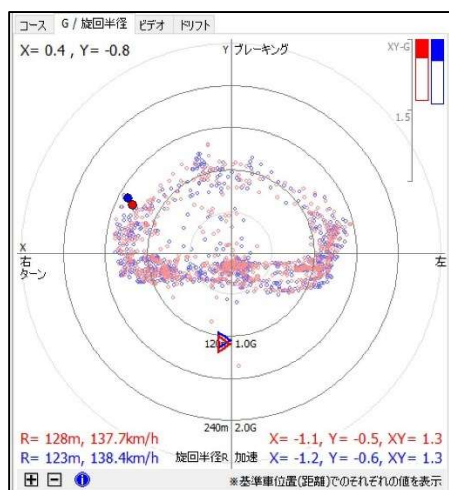
□拡大、縮小、インフォメーション



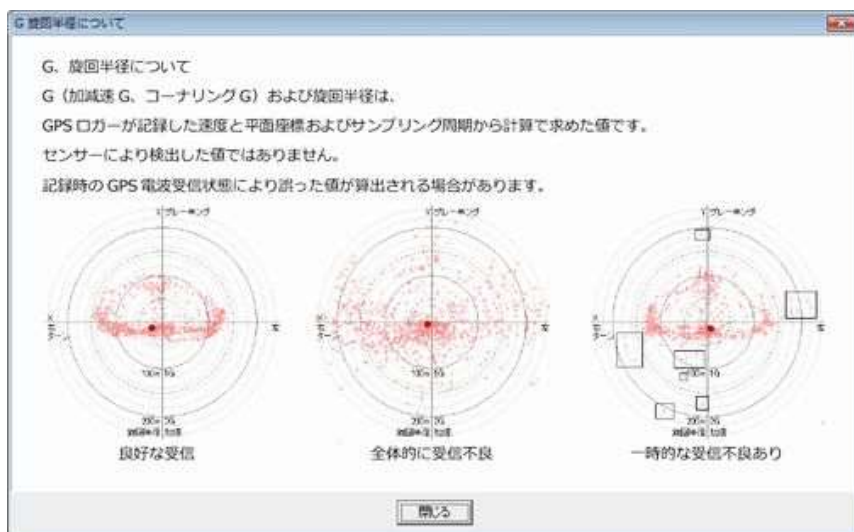
＋：グラフの拡大 （スクロールホイールにより拡大縮小は可能）



－：グラフの縮小 （スクロールホイールにより拡大縮小は可能）



①：デジスパイスが表示する G、旋回半径についての注意点が表示されます。



7.5.2.2.1 グラフの見方

表示されている G 分布がタイヤ限界 G サークルの円周上に集中しているほど、タイヤの性能をフルに使いドライブしていることがわかります。（ただし、加速側は動力性能によります。また、加速時にタイヤ限界 G に達することはまずありません。）

ご使用のタイヤにより限界 G は異なります。

下記がタイヤ別のおおよその限界 G です。

□スポーツラジアル 約 1.2G

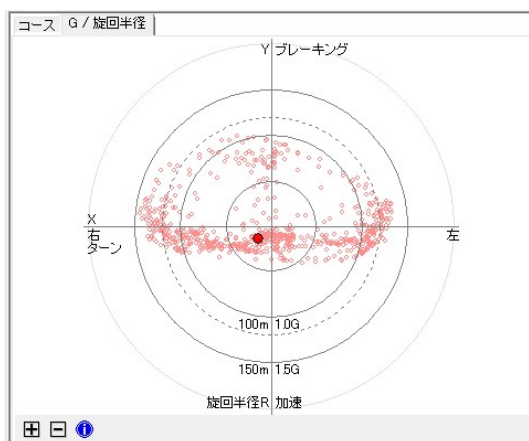
□S タイヤ 約 1.5G

※ ダウンフォースの大きな車両や軽量ハイパワーの車両は上記より大きな数値が出る場合があります。

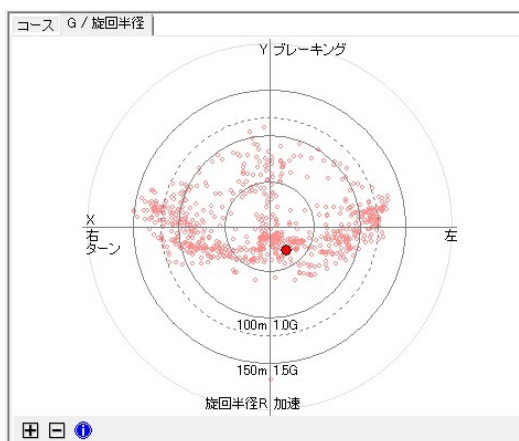
※ ミニサーキットなど速度の上がらない場所では限界数値が下がる傾向にあります。

※ ウェット路面では限界 G は下がります。路面温度でも変化します。

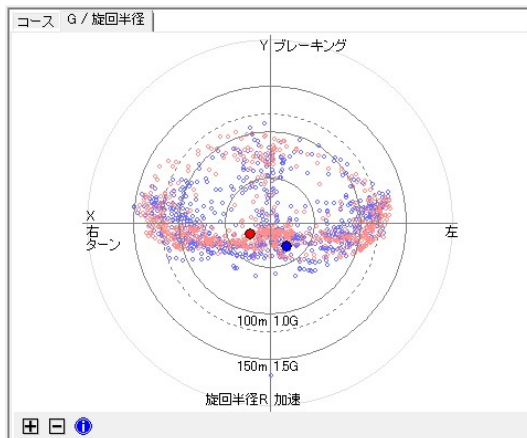
下記は 2 台の走行データを表したものです。



A 車両 : G が円周上に分布



B 車両 : G 分布が分散



2 台のデータを表示（A 車両＝赤、B 車両＝青）

ブレーキングとコーナリングで赤は青より外側に G が分布しており、ブレーキングとコーナリングについては赤の方がタイヤをうまく使えていることがわかります。加速側は青の方がより下側に G が分布していることから青の車両が加速性能で勝っていることがわかります。

G の計算式は下記となります。

コーナリング $G = (\text{速度}[\text{m/sec}]^2 / (\text{旋回半径}[\text{m}] / (\text{重力加速度 } 9.80665[\text{m/sec}^2]))$

加減速 $G = (\text{速度差}[\text{m/sec}] / (\text{時間差}[\text{sec}] / (\text{重力加速度 } 9.80665[\text{m/sec}^2]))$

速度が同じでも、

旋回半径が小さければ、コーナリング G は大きくなります。

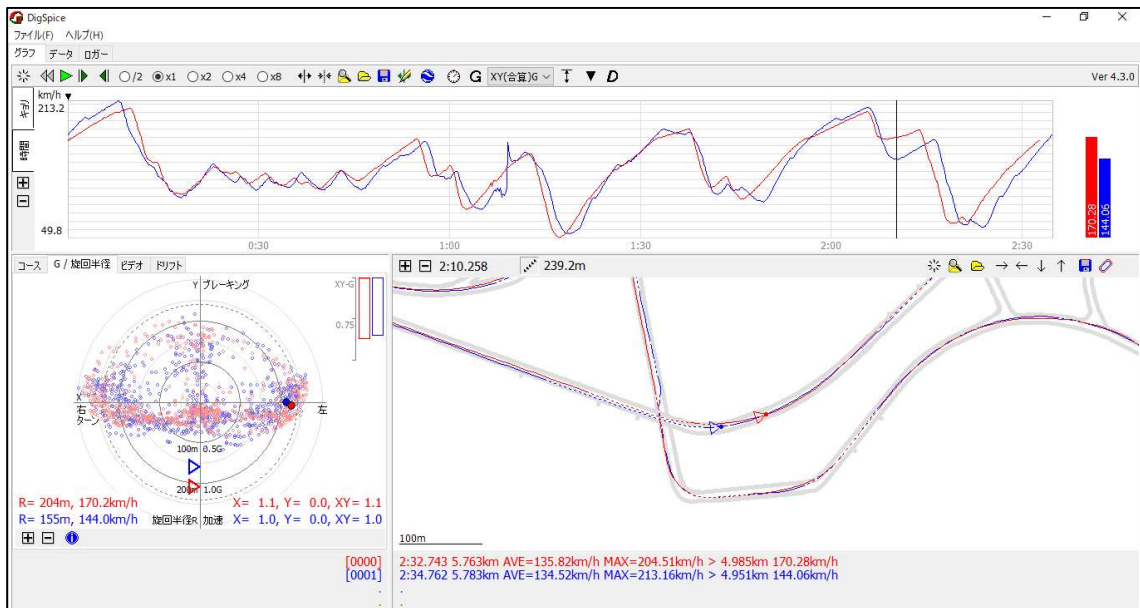
旋回半径が大きければ、コーナリング G は小さくなります。

旋回半径が同じでも、

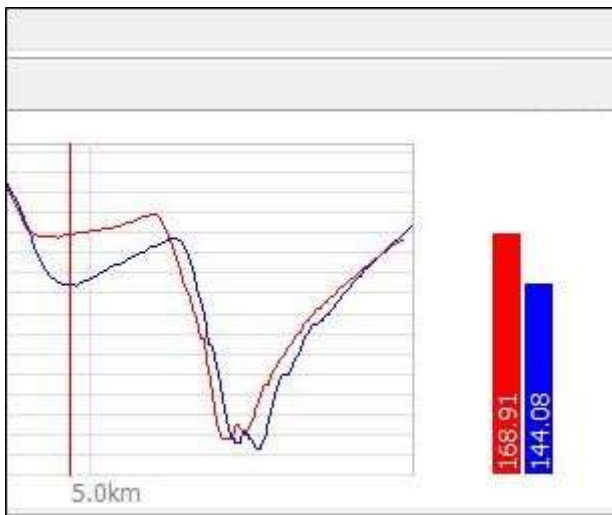
速度が高ければ、コーナリング G は大きくなります。

速度が低ければ、コーナリング G は小さくなります。

■鈴鹿サーキット 130R を例に説明します。



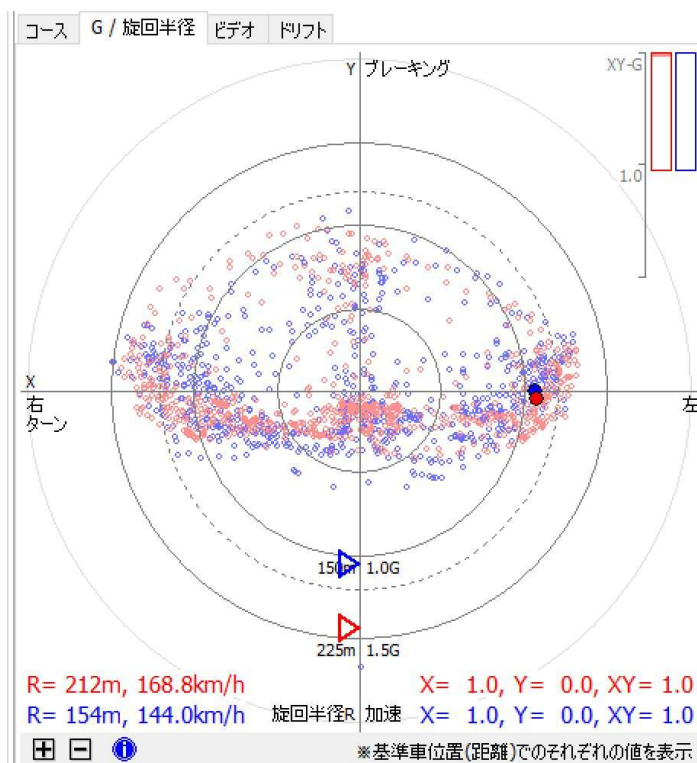
鈴鹿サーキット 130R 速度解析画面



130R のボトム速度を比較してみると、24km/h の差があることがわかります。

青の車両は単にここでの速度を上げればよいのでしょうか。

コーナリング G を比較してみましょう。



2 台とも合算 G (XY) =1.0G でており、タイヤの限界に近い値に達しています。
よって、青の車両はこれ以上速度を上げられないことがわかります。

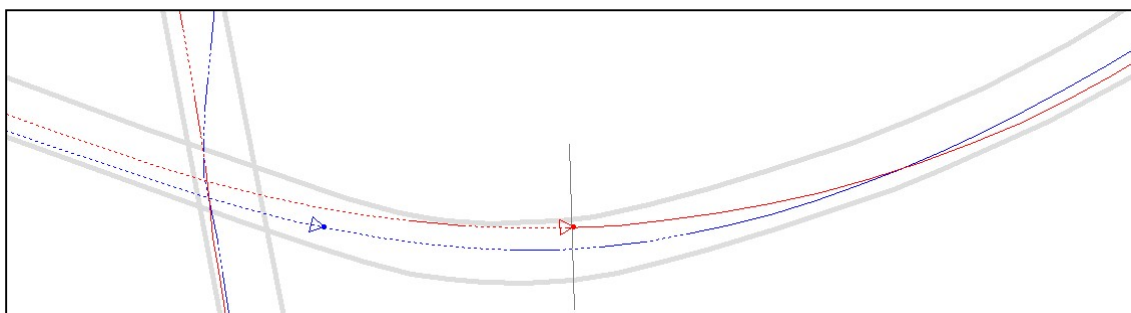
今度は旋回半径を比較してみましょう。

青 R=156m

赤 R=213m

ここに大きな差があることがわかります。

つまり、青の車両は旋回半径が小さいライン取りをしているため赤よりも低い速度まで減速しコーナリングせざるを得なかったということです。



青の車両は 130R のライン取りを見直し旋回半径を大きくすることで、これまでよりも高い速度でのコーナリングが可能となります。

7.5.2.3 ビデオ



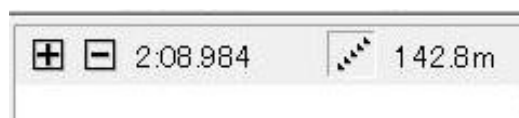
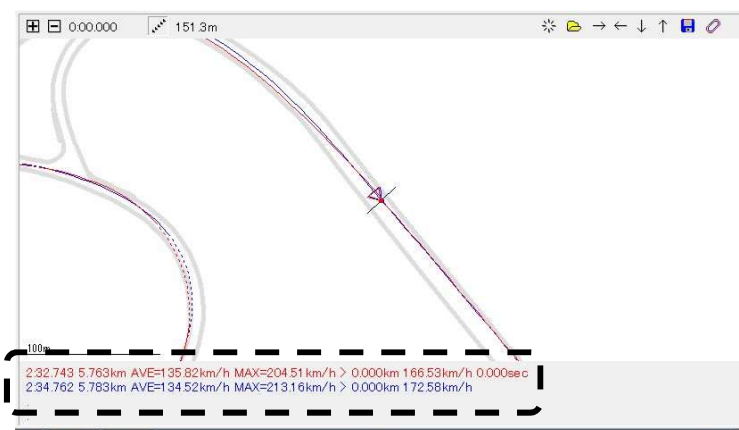
弊社 HP の下記 youtube 動画をご覧ください。

https://www.youtube.com/watch?v=g201e_EaCuE

7.5.3 アニメーションウインドウ

走行データをアニメーションさせます。

7.4.1 のコース図ファイル読み込みを行えば、コース図上を走行させることができます。



- | | |
|--------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 拡大/縮小 | <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> またはスクロールホイールにより拡大/縮小が可能です。 |
| <input type="checkbox"/> 時間表示 | スタート地点から赤印車の所要タイムを表示しています。 |
| <input type="checkbox"/> 点線 | 減速時に点線表示/非表示の選択 |
| <input type="checkbox"/> 距離 | 赤印車の先頭からマウス位置までの差を表示
コース取り、ブレーキポジションなどを比較計測できます。 |

2:32.743 5.763km AVE=135.82km/h MAX=204.51km/h > 4.495km 183.54km/h +0.146sec
 2:32.775 5.760km AVE=135.72km/h MAX=207.46km/h > 4.485km 183.03km/h

選択されたラップの、ラップタイム、距離、アベレージ速度、最高速度、
 ポジションラインのスタートからの距離、その地点での速度、赤車両の青車両とのタイム差

7.5.3.1 アニメーション

実線 (赤-青-緑-黄) 定速、加速時

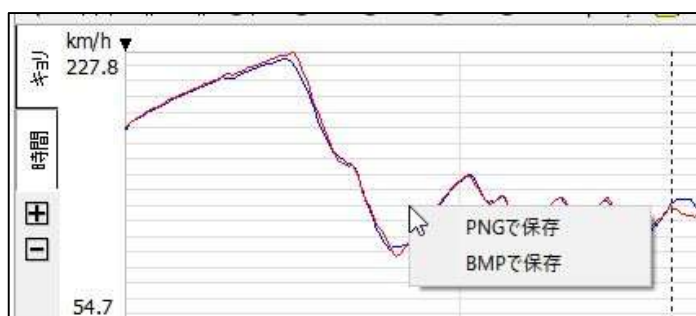
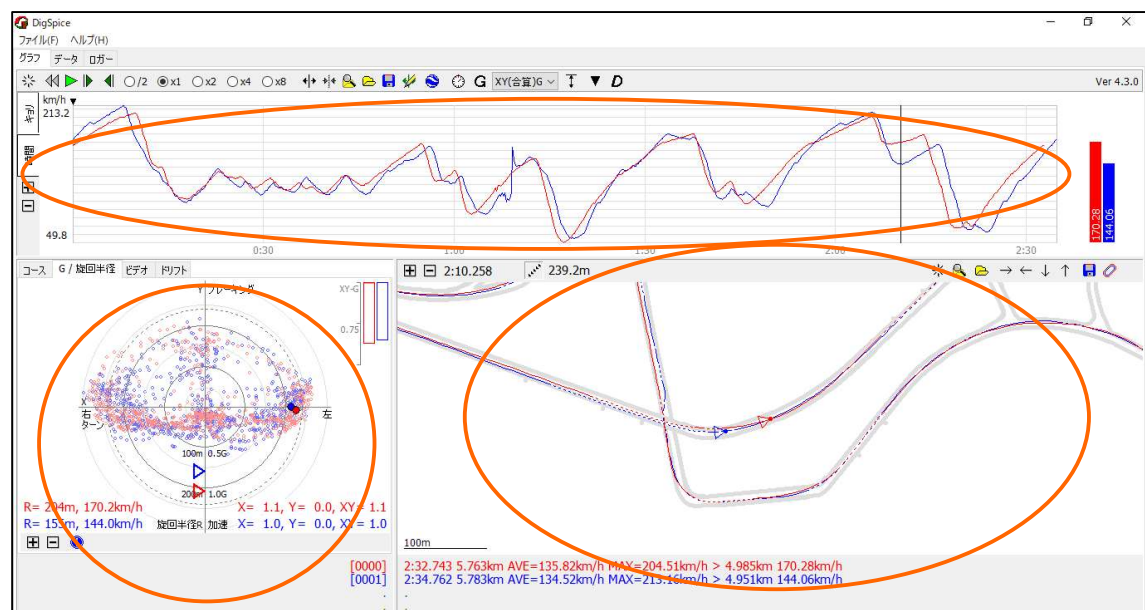
点線 減速時

実線 (グレー) GPS の電波が不安定な状況

トンネルなどの影響で GPS の電波を正常に受信できない時に、グレーに変化します。この
 前後のデータは誤差を含みますのでご注意ください。

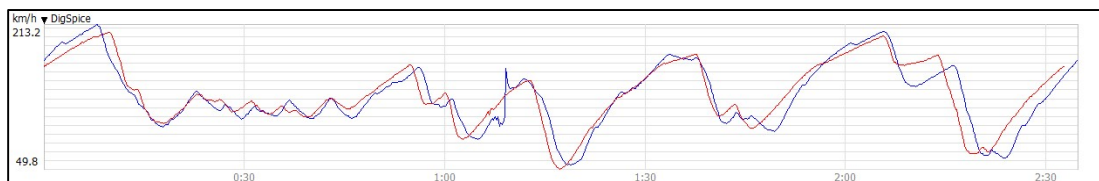
7.6 グラフ、走行軌跡を画像として保存する機能

下記の部分で右クリック



保存形式を選択してファイル名を指定してください。

下記のような画像ファイルとして保存できます。



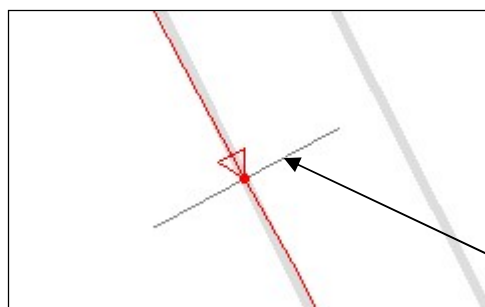
8. 初期設定



8.1 セクタゲート長の設定



セクタを設定したときのゲート長を設定します。（初期値 15m）
 基準車位置から両側に何メートルのゲート(ライン)を設定するかを指定します。
 『15.0』とした場合、基準車を中心に 30 メートルのゲートが設定されます。



この長さを設定

※設定値の目安

サーキット、15～20 メートル

ミニサーキット、10～15 メートル

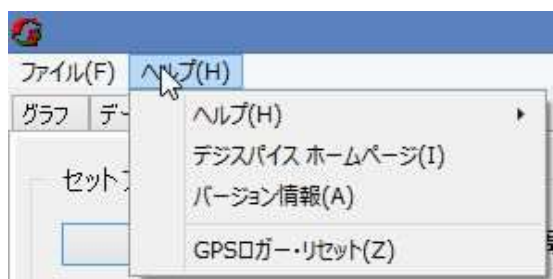
カートサーキット、8～10 メートル
トライアル競技、8～10 メートル

8.2 ラップ切り出し条件



最低周回距離と周回タイムを設定します。（初期値 300m、8 秒）
ミニサーキットなど短いコースをご利用の時に設定してください。

9. ヘルプ



9.1 ヘルプ



取扱説明書が表示されます。

デジスパイスIV取扱説明書

映像リンク機能・ヘルプ

ドリフトアングル表示機能・ヘルプ

デジスパイスの種類

デジスパイスⅣ	 A black rectangular device with the 'Dig Spice IV' logo in the center. The logo features the text 'Dig Spice' in white with a red and green swoosh, and a large 'IV' in white below it.
デジスパイスⅢ	 A black rectangular device with the 'Dig Spice' logo in the center. The logo features the text 'Dig Spice' in white with a red and green swoosh.
デジスパイスⅡ	 A black rectangular device with the 'Dig Spice' logo in the center. The logo features the text 'Dig Spice' in white with a red and green swoosh. A small circular button is visible on the right side.
デジスパイス (初期型)	 A black rectangular device with the 'Dig Spice' logo in the center. The logo features the text 'Dig Spice' in white with a red and green swoosh.

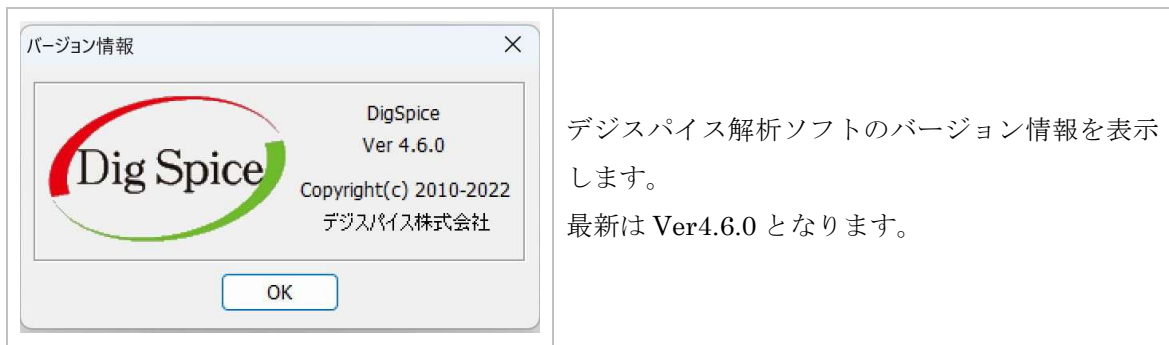
9.2 デジスパイスホームページ

デジスパイスホームページにリンクします。

<https://www.dig-spice.com/jp>

※インターネットに接続できる環境でしか動作しません。

9.3 バージョン情報



9. FAQ

9.1 解析ソフト

Q：パソコンにインストールするときに必要な空き容量は？

A：200MB 必要になります。十分な空きのあるパソコンをご用意ください。

Q：デジスパイス以外の GPS ロガーで解析ソフトは動作可能でしょうか？

A：デジスパイス以外のロガーは動作しません。

Q：Windows 以外のパソコンで動作可能ですか？

A：申し訳ございません、現時点では Windows 以外は動作しません。

Q：パソコンのスペックはどの程度まで必要ですか？

A：高スペックのものでなくとも解析までは可能ですが、アニメーションで再生モード時に、スムーズに動かない可能性があります。その場合は、同時に走らせるクルマの台数を減らしてください。

Q：解析ソフトは複数台のパソコンにインストール可能ですか？

A：インストールは可能です。

Q:取得したデータが正しくないのですが？

A：GPS のセットアップ内容を確認してください。必要であればセットアップを行ってください。（6.2 章参照）

A:取り付け位置は大丈夫でしょうか？（4 章参照）

Q：ログデータが全く取れていないのですが？

A：GPS ロガーの電源が ON になっているか確認してください。

（2.3GPS ロガーのモード）

ログ開始速度が適切になっているか確認してください。

(6.2.2.1 ログ開始速度変更)

Q：カート（バイク）に取り付けたのですが、データが飛んでしまいます。解決法は？

A：振動が GPS ロガーにダイレクトに伝わっている可能性があります。
ラバーなどで除振対策を行ってください。

Q：コース図データなどのダウンロードはどこから可能でしょうか？

A：弊社 HP からコース図、コントロールライン、走行データがダウンロード可能です。

(逐次アップ予定) <http://www.dig-spice.com/jp>



10. ハードウェア仕様

< デジスパイスIV本体 >	
レシーバータイプ	GPS L1 C/A,QZSS L1 C/A/S,GLONASS L 10F BeiDou B1I,Gallileo E1 B/C SBAS L1 C/A:WAAS,EGNOS,MSAS,GAGAN
C/Aコード	1.023Mcps
チャンネル	92チャンネル
< パフォーマンス >	
精度	位置：1.5m CEP
更新レート	精細20Hz、標準10Hz、長時間5Hz
感度	トラッキング時：-167dBm
	再取得時：-160dBm
ホットスタート	2秒
アイドリングスタート	2秒
コールドスタート	24秒
加速限界	4G
インターフェイス	USB 2.0/3.0
< デジスパイスIV本体 >	
サイズ	48.5 x 37 x 15.5 mm
重量	35g
入力電圧	Vin : 5.0V ± 10%
内蔵バッテリー	リチウム電池
使用温度	-10° ～ 60° C
保管温度	-20° ～ 60° C
充電時温度	0° ～ 45° C
防水防塵	IP00（防塵防水対策なし）
充電時間	約180分
稼働時間	約7時間(BluetoothOFF/外部アンテナなし)
	約6時間(BluetoothOFF/外部アンテナ使用)
	約5時間(BluetoothON/外部アンテナ使用)
	※電波受信状況が悪いと駆動時間は短くなります。
湿度	5～90%まで（結露なきこと）
< 外部アンテナ >	
サイズ	49.4×37.8×16.4mm（各±0.5mm）
ケーブル	3m
使用温度	-40° ～ 85° C
湿度	95%以下
防水防塵	IP66
固定	マグネット

11. BLUETOOTH 機能についてのご注意

BLUETOOTH 機能をご使用の際は、注意事項をお読みのうえ正しくお使いください。

- ・デジスパイスⅢ及びⅣの BLUETOOTH 機能は、日本国内のみでお使いください。海外でご使用になると罰せられることがあります。
- ・BLUETOOTH 機器が使用する 2.4 GHz 帯は、さまざまな機器が共有して使用する電波帯です。そのため BLUETOOTH 機器は、同じ電波帯を使用する機器からの影響を最小限に抑えるための技術を使用していますが、場合によってはそれらの影響で通信速度が低下したり通信距離が短くなったりします。場合によっては通信が切断することがあります。
- ・通信速度と範囲は、通信機器間の距離や障害物、電波状況、壁の有無・素材など周囲の環境で変化します。また、電波環境により通信が切断される場合があります。

12. ラップタイマーアプリ

iOS 端末は、AppStore から、Android 端末は GooglePlay から



iPhone Circuit Time Pro



android Circuit Time Pro

『デジスパイス』と検索し、『DigSpice Circuit Time Pro』をダウンロードしてご利用ください。

取扱に関してはアプリの説明をご覧ください。

13. 製品に関する問い合わせ

デジスパイス株式会社
〒299-5246 千葉県勝浦市興津久保山台 48-5
TEL090-1438-4603
Mail info@dig-spice.com
<https://dig-spice.com/jp>

14. 変更履歴

Ver3.0.0

デジスパイスⅢ対応
ログデータの部分ダウンロードを可能とした。

Ver3.1.0

セクタタイム一覧をデータ TAB に表示

Ver3.2.0

通信速度アップに対応

Ver3.3.0

シミュレータ、ゲーム機データ読込
セクタの自動検索

Ver3.4.0 2018 年 8 月

iPhone を使ったドリフトアングル計測機能の追加

Ver3.4.2 2019 年 5 月

10Hz ドリフトアングル計算微調整
GoogleEarth 出力時の GoogleEarth 自動起動を停止

Ver3.4.3 2019 年 10 月

コントロールラインがない状態で OK を押したときのワーニング表示追加

Ver3.4.4 2019 年 12 月

NMEA ファイル出力
ログ消去後にセットアップ内容表示

Ver3.4.5 2020 年 9 月

ロガータブのレイアウト変更
データタブのブロック毎の色分け
ロガータブのログ開始停止速度 0km 時のワーニング表示
G ウィンドウに G、旋回半径、速度の数値表示
【不明なモード】時のデータ読み込み
旧ファームウェアの場合のワーニング表示

Ver4.0.0 2022 年 4 月

デジスパイスⅣに対応
フリクションサークルに G の縦横比を追加
フリクションサークルのプロットを 7.5km の周回コースまでは取得周波数で表示
<ロガー>Tab の周波数 20Hz 追加など変更
ファイル>設定>ラップ 最小周回距離を 300m を 200m に変更（千葉北対応）
※Ver4.0.0 で DS4 のログを走行データ(dtb)として保存したものは、Ver4.7 以降で読み込むと、G の値に違いが生じる（2025 年 9 月 9 日）

- Vee4.1.0 2022 年 7 月
G フィルタの一部修正
- Ver4.2.0 2022 年 9 月
C-TIME 修正
名阪 E コース追加
- Ver4.2.1 2022 年 9 月
イタリアのイモラサーキット、那須モータースポーツランドのコース追加
- Ver4.2.2
取説 LOG/BLE モードの別に更新周波数設定可のコメント追加
- Ver4.3.0 2023 年 1 月
CSV 出力に緯度経度追加
グラフ TAB の G 表示を合算、縦、横選択表示
- Ver4.4.0 2023 年 2 月
G のフィルターアルゴリズム最適化
G グラフに左右表記
速度グラフ上部の G 表示に[G]単位追加
- Ver4.4.1 2023 年 2 月
G 表示：フリクションサークル内と速度バー上部の整合性をとる
横軸を時間にした場合の G 表示の調整
- Ver4.5.0 2023 年 3 月
ログ読込時に空き容量が 20%を切っていた時、ダウンロード後に information 表示の追加
- Ver4.6.0 2023 年 5 月
ドリフト採点機能追加
データ TAB の走行データ一覧で右クリックすると、
『全データをクリップボードへ (A) 』が表示され、クリップボードに入れることができる。そのデータを Excel に一括ペーストできるように、『、』から TAB 区切りに変更
セクタ詳細表示に、セクタ内の最高速/最低速表示を追加し通過速度を削除
- Ver4.7.0 2025 年 9 月
G 表示及び CSV に保存した場合のフィルターアルゴリズム最適化
- Ver4.8.0 2025 年 10 月
同一座標データをコントロールライン上で連続取得した場合のロジック修正